

第23回

東京玉翠会

おいでませ

夏だ！祭りだ！全員集合！



第77回選抜高校野球大会出場記念

平成17年7月9日（土）午後4時半～6時半
ホテルパシフィック東京「萬葉の間」

高松祭り

Eika

SHISEIDO



心が、開く。

The scent of the spirit.

ZEN オードパルファン アロマティック (100ml・スプレータイプ) 5,500円 (税込5,775円)
表示価格は、税抜希望小売価格です。お問い合わせは、資生堂お客様窓口 フリーダイヤル 0120-81-4710へ (9:00~19:00/土・日・祝日を除く) www.shiseido.com/ZEN/
発売元 資生堂インターナショナル

株式会社 資生堂 代表取締役社長 池田守男 (高松S30年卒)
執行役員専務 細川 治 (高松S34年卒)

テーマ

心のふるさと玉翠会へ、ようこそ おいでませ

東京玉翠会総会も23回目を迎え、年に一度の催しとしてすっかり定着いたしました。私たち幹事団一同 (昭和56年卒) は、この夏のひとときを少し昔の高松のお祭りにいらした気分で楽しく過ごして頂けるよう、昨年11月より心をこめて準備してまいりました。

今宵は、慣れ親しんだ味、香り、風景、言葉に囲まれて全員集合！そして、今後も総会が「夏祭り」のように毎夏の待ち遠しい行事として、世代を超えた卒業生の皆様にいつまでも愛し続けられますよう、一同謹んでお祈り申し上げます。さあ、

『おいでませ ～夏だ！祭りだ！全員集合！～』

平成17年7月9日

第23回東京玉翠会総会 幹事一同

目次

◇ごあいさつ 東京玉翠会会長 辻 義文、東京玉翠会新会長 渡辺 修 玉翠会会長 多田野久、高松高等学校校長 溝渕利博	2
◇寄稿 初代事務局長 大西昭一郎	6
◇ごあいさつ 第二代会務局長 岩崎 昭宏	8
◇事務局体制	9
◇総会次第	10
◇議案書	11
◇甲子園応援団編成顛末記	15
◇卒業生インタビュー 女優・高畑 淳子さん	20
◇特集・世代を超えて共有できる讃岐の思い出	22
◇第77回選抜高校野球大会出場記念企画 熱闘！高高野球。71年ぶりの甲子園で見た夢～応援レポート～ Interview：春のセンバツに出場して 座談会：緊急集合！在京野球部 OB 座談会 Special Interview：松家卓弘 (横浜ベイスターズ)	32
◇第23回総会幹事団紹介 そして第24回へ	42
◇同好会紹介	44
◇各地の玉翠会だより	46
◇表紙デザイナー紹介・御礼・編集後記	52
◇校歌・校友会の歌	53
◇東京玉翠会会則	58
◇東京玉翠会役員名簿、学年幹事名簿	61
◇寄贈図書目録	67

ごあいさつ

“趣味と健康”

東京玉翠会会長

辻 義文



本年の総会は三好さん達56年卒の幹事団により運営された。盛大な同窓会が開催できた事にご同慶にたえません。私が前会長の宮井さんから引き継いだのが49年卒の幹事団の時代だったから、8年経った。その間各年次の幹事が苦勞しながらこの総会を開催して育って行った。長年私もご厄介になったが、今後を34年卒の渡辺さんに引き継ぐ事になり安心している。この会が高松とともに学び、ともに遊んだ仲間の会として、地道に、発展する事を願っている一人です。例によって駄文を付して挨拶に代えます。

クラリネット（以下CLAと略す）に何時頃から興味をもったのかは覚えていないが、昭和40年代に6か月位先生に付いて習った時、丁度現場の機械故障（当時工場の技術課長だった）とCLAの練習日とが重なり、練習を止めたのが早計だったのだが、30年のブランクが出来てしまった。その間CLAは2本になったが吹く事もなく時間が経った。会社からまったく身を引いた時、趣味だったGOLFに加えて、絵とブリッジとCLAとを始めた。ブリッジは約束事が多いのと4人揃わぬと出来ない事もあって止めたが、他は続けている。音楽に詳しい人に言わせると、上達するには、①先生につく事。②発表会に出る事。と聞いたが①は3年続けているが②はやっていない。最初に習った時も中学生位の子と一緒にだったが、その子は何かシンフォニーの一部らしい曲を軽がると演奏していた。あの時から続けていればと悔やむ事もあるが、今となってはどうする事もできない。GOLFの例で考えると、一番忙しい時に出した成績が最高で、練習時間はいくらでもあると思っていた最近が最悪だ。後輩にはこの話をして「時間がない、暇がないと言っている人に遊びの趣味は早くから始める事」を薦めている。“好きこそものの上手なり”とはよく言った物で、趣味の世界では結局ここに落ち着く物らしい。同年輩の友人に大学時代から歌を趣味にしている人がいる。彼の行動を見ていると山に駆け足で登ったり、ボディビルを日常的にやっているが、これらも歌の為にやっているのだが結果は彼の健康にもおおいに寄与している。趣味で一芸に秀でる事は健康の為にもおおいに寄与して居る事が多いように思える。

ごあいさつ

東京玉翠会新会長

渡辺 修



この度 辻 義文大先輩から、第五代東京玉翠会会長の大役を引き継ぐことになりました。辻会長には、長年に亘り東京玉翠会の発展の為に尽力いただき誠にありがとうございました。心から敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

高中や高女の在京同窓生による東京高中会や東京晩翠会は、随分古くから開かれておりましたが、昭和50年には、東京高高会が1年間の周到なる準備の下、多田野会長を中心にして開催されました。その後しばらくの間は、三会鼎立の状態で推移しましたが、昭和58年には、関係者の御努力により三つの会が大同合併して東京玉翠会となりました。

その記念すべき第1回東京玉翠会は、昭和58年6月25日、如水会館で639人のご参加を得て、極めて成功裡に挙行されました。私達昭和34年卒業の“東京讃志会”が幹事年度として担当し、私も当日の司会をさせていただきました。22年前のことですが、つい昨日のように思い出されます。

爾来、東京玉翠会は会員各位のご熱意とご協力によりまして、年々盛大となり、総会も歴史を重ね今日に至っておりますことは、誠に喜ばしい限りです。

今年の春の選抜高校野球大会では、高高が72年振りに甲子園出場の夢を果たしました。これも、母校の21世紀の今に続く文武両道の成果であり、アルプススタンドを埋めた6000人余の熱き想いの一糸乱れぬ大応援は、感動的であったと聞いております。

伝統ある母校・その大都会のオアシスたる東京玉翠会の更なる発展の為に、私も微力を尽くす所存でございます。

諸先輩をはじめ会員皆様には、宜しくお願い致します。

渡辺氏の経歴

昭和34年高卒、東京大学法学部卒、通商産業省入省、
ニューヨーク・ジャパン・トレードセンター次長、
内閣総理大臣秘書官、平成9年通商産業事務次官
現日本貿易振興機構（ジェトロ）理事長

ごあいさつ



玉翠会会長
多田野 久

「春はセンバツから」とはよくいったもので、今年の春は、特に私ども同窓生にとりまして思い出に残る嬉しい春を運んでくれました。今も同窓生の間では母校野球部の甲子園出場の話に花が咲いております。

本日、ここホテルパシフィック東京におきまして、『おいでませ ～夏だ！祭りだ！全員集合！～』のテーマのもと、第23回東京玉翠会総会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

東京高中会・東京晩翠会・東京高高会が昭和58年に合併し、第1回「東京玉翠会総会」が開催されてから22年の歳月を重ね、全国一といえるほどの大きな同窓会に成長しましたのも、ひとえに歴代会長をはじめ幹事団のご尽力とご苦勞の賜物であり、ここに深く敬意と感謝を表する次第であります。

さて、母校が創立112周年となり、卒業生も5万人に届こうかという今日、予てから玉翠会のパワーには感じるころがありました。この春の甲子園大会では、改めてそのエネルギーの大きさと団結力の強さに感動いたしました。応援団の人数はもとより、その整然とした力強い応援には球場関係者も驚くほどのものでした。また、開催中の現地本部には、全国からのお祝いや問い合わせの電話が多数ありましたが、対応の先生方には、その中に母校に対する熱い思いがひしひしと伝わってきたと伺っております。小さいお子様を預けられたり、家業を休んで甲子園に駆けつけられたり、仕事の都合で甲子園には行けなかったけれどもTVの前で大声で一緒に応援したり、等々多くの皆様の母校愛に燃えた思いがもの見事にアルプススタンドを揺れ動かさんばかりの大きなうねりとなって、今回の応援団賞最優秀賞受賞に結びついたものと心から嬉しく思っております。

東京からも応援団バスや、新幹線を使って多くの方々が応援に来てくださいました。加えて、多くのご芳志も賜りました。重ねて厚くお礼を申し上げます。

母校の新たな歴史の1ページは、私どもひとり一人の誇りと自信となって心に刻まれることでしょう。

最後に、会員の皆様方の益々のご活躍と、23年目を迎えた東京玉翠会の更なるご発展を心より祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。

ごあいさつ

「72年ぶりの甲子園出場」と 「軽井沢・東京セミナー」



香川県立高松高等学校
校長
溝渕 利博

栗林公園では紅白色の蓮の花が咲き始め、夏の訪れを感じる季節となりましたが、東京玉翠会の皆様には平素より母校の教育活動や部活動の振興のために、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本日は第23回の総会が「おいでませ～夏だ！祭りだ！全員集合！～」のテーマのもと盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

さて、このたびは皆様の温かいご支援のお陰で、野球部が第77回選抜高等学校野球大会に「21世紀枠」代表校として、72年ぶり4回目（春夏合わせると8回目）の甲子園出場を果たすことができました。伝統のストッキングに8本目のラインを入れて、選手諸君も実に晴れやかな表情で入場行進を行い、宇部商業との、試合においても「全員野球、全力疾走、考える野球」をモットーに、終始明るく澁刺としたプレーで善戦健闘するなど、全国に高松高校の名を強く印象づけてくれました。アルプススタンドを埋め尽くした大応援団の整然とした爽やかな応援ぶりが大会本部から高く評価され、日本一の栄えある最優秀賞を受賞することもできました。これも一重に皆様方の熱い母校愛とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

高松高校では、全日制の生徒が今年から各学年8クラスの964名となり、長らく「朝日輝く（校友会の歌）」に歌われた「勤しむ健児、一千余」の生徒数を下回るようになりました。少子化の影響ではありますが、定時制46名、通信制334名を合わせた合計1,344名の生徒たちは、現在も高中の「至誠一貫」や県女の「雪持ち笹」の精神を受け継ぎ、「文武両道」「自主自律」の高高スピリットを胸に、勉強や部活動・生徒会活動等に積極的に取り組んでいます。また、新しい取り組みとして、本年度から「見えない学力」を向上させるために、従来型の修学旅行に代えて職場研修を主体としたキャリア教育プログラム「軽井沢・東京セミナー」を県内の高校で初めて実施することになりました。東京玉翠会の皆様のご全面的なご協力を得て、東京及びその周辺の企業や大学・研究所等の社会の第一線で活躍中の先輩を生徒自らが訪問して、ジョブシャドウイングなどを行うことによって、仕事を通じて人々が繋がり社会が構成されていることを知り、生きた職業観や勤労観を学び取るとともに、高校生が自らの目線で感じ取った研修内容をレポートにまとめるなどして、今後の進路選択やキャリア形成に役立てさせたいと考えています。さらに本年6月からは普通教室にも空調設備が設置され、今まで以上に生徒たちは快適に学習ができるようになっていきます。

東京玉翠会が本総会のご盛會を機に今後益々発展され、会員の皆様方がご健勝にてご活躍されますよう心から祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

東京玉翠会の歴史と発展

初代事務局長

大西 昭一郎

(昭和33年卒)

東京には、かねて旧制高松中学卒業生による東京高中会、旧制高松高等女学校卒業生による晩翠会東京支部という同窓会があったが、昭和50年まで、高高卒業生には同窓会がないという状況が続いていた。新制高松高等学校を卒業した者には東京高中会、晩翠会の入会資格がなく、また仮にこれらの入会資格を拡大したとしても、それだけでは、男女共学で育った高高生が男女別々の同窓会に属するという不自然な状態になってしまうということからである。

そこで、昭和49年頃から、高高生の高高生による高高生のための同窓会設立の気運が盛り上がり、多田野久氏（25年卒）、藤井富弘氏（26年卒）、井関賢治氏（29年卒・故人）、近藤和彦氏（30年卒）、矢野郁子氏（32年卒）、三崎屋義正氏（34年卒）らを中心として十数回に及ぶ準備会を経て、昭和50年5月17日、東京プリンスホテル・サンフラワーームにおいて東京高高会設立（第1回）総会が行われ、会長に多田野久氏、副会長に藤井富弘氏と平井佐代子氏を選出した。このときの総会は、現在のような輪番制が確立したものではなく、いろんな卒業年次の人たちが寄り集まって旗揚げをしたという気分のものであった。出席者は262名であった。

第2回総会は、平河町のマツヤサロンで開催。出席者258名。

第3回総会は、ホテルニューオータニ鳳凰の間で開催（28卒担当）。出席者238名。

第4回総会は、ホテルニューオータニ鳳凰の間で開催（29卒担当）。出席者288名。

第5回総会は、赤坂プリンスホテル新館で開催（30卒担当）。出席者334名。

第6回総会は、赤坂プリンスホテル新館で開催（31卒担当）。出席者338名。

第7回総会は、ホテルニューオータニ鳳凰の間で開催（32卒担当）。出席者421名。

第8回総会は、ホテルオークラ曙の間で開催（33卒担当）。出席者488名。

このように、東京高高会は次第に隆盛を誇るようになったが、昭和56年頃から、東京高中会、晩翠会東京支部、東京高高会の三会同会の気運が生ずるにいたった。第8回東京高高会総会の準備と並行して、高中会会長松原寛氏、晩翠会会長松浦三知子氏、高高会会長多田野久氏を中心とした三会同会準備委員会が頻繁にもたれ、三会統合の方向が明らかにされた。このようにして、昭和58年6月25日、如水会館に639名が出席して東京玉翠会の創立総会（第1回総会）（34卒担当）が開催され、会長に平井健吉氏、副会長に宮井仁之助氏、松浦三知子氏、多田野久氏、永野精子氏を選出した。

以来東京玉翠会は、第2代会長大島 功氏（平成元年～5年）、第3代会長宮井仁之助氏（平成5年～9年）、第4代会長辻 義文氏（平成9年～17年）のもとに発展を遂げてきたが、さらに今年、初の高高卒の会長に渡辺 修氏（34卒）が選ばれる運びとなり、ますますの隆盛が期待されている。併せて、昨年には事務局体制に大改革を加え、若返りを図るとともに、多くの方の参加を得て、東京玉翠会会員間の連絡の緊密化はもとより、玉翠会本部や他の支部との連絡もはかられることとなった。

東京高高会設立の時からいえば30年、深甚なる感謝を表するとともに、新会長、新事務局体制のもとに、会員相互の親睦と理解を深め、東京玉翠会がますます発展していくことを願いつつ筆を擱くこととする。

ごあいさつ

変わることと変わらぬもの

第二代事務局長
岩崎 昭宏
(昭和49年卒)



高中会、晩翠会、高高会というすばらしい3つの源流をもつ、東京玉翠会の第2代事務局長をさせていただくことになりました、高高昭和49年卒の岩崎昭宏でございます。

20数年前、数々の困難を克服して、東京玉翠会創設の中心として活躍され、その後の会の発展にも多大なご尽力を賜った初代事務局長 大西昭一郎先輩には、そのご苦勞に対し心から感謝申し上げる次第でございます。

東京玉翠会創設の趣旨、そして、今日までの歴史を踏まえ、さらに会を発展・充実させていくべく、努力することが新任事務局長としての私の責務と考えております。

発足後、23年という月日の中で、東京玉翠会をとりまく環境も大きく変わってきております。会員数は推定7000名、年に一度の総会参加者も1000名、各種の同好会での活動や、各学年での懇談会の開催など、質量ともに発展してきた流れの一方で、社会、経済環境の変化、会員の意識の多様化、母校高松高校のおかれた状況の変化など、会の更なる発展にとって、クリアしていかなければならない様々なハードルが存在しております。

1年前の22回総会もご存知のとおり、新たな対応を迫られた中での開催となりましたが、その準備の過程で、今後の東京玉翠会のあり方について問題意識を整理することができました。私もそのプロセスに関わりながら、同窓会・東京玉翠会について改めて認識を深めることができました。その中で感じたことは、「同窓会として変えることは当然あるが、一方でいつまでも変わらぬものもある」ということでした。

昨年より20数名に陣容を拡大した事務局は、まさに会の運営、維持、発展のための方法論として、変わる東京玉翠会の一つの顔ですが、その事務局活動の根底をなすのは、故郷を同じくする同窓会への思いという世代を超えた変わらぬ気持ちです。

歳の差“70”を越える老若男女が気持ちを一つにできる場としての「東京玉翠会」を更に発展・充実させるため、事務局メンバーとともに頑張っていく所存ですので、会員の皆様のご支援、ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

<東京玉翠会 事務局体制> (事務局 代表電話番号：03-5685-4703)

担当部門	担当ミッション	事務局員
事務局長	*事務局の統括	岩崎昭宏(S.49) (代行:北村篤孝(S.49))
会計担当	・東京玉翠会一般会計担当～予算、決算 ・総会会計監査担当	前田 勇(S.38) 瀧崎正弘(S.50) 奥本和幸(S.63)
総務パート	*事務局局務全般担当(総会幹事団サポート主担当) ・各学年幹事相談窓口、幹事活動強化支援 ・長年の懸案である東京玉翠会としての全体名簿作成 総会準備における希望年度からの学年名簿手配対応など。 ・一般会員への情報提供・啓蒙活動の企画、実施 ・メーリングリスト担当 (メーリングリストを活用してネット事務局機能の充実を図る) ～各担当事務局員はメーリングリストに登録～	入江 久(S.42) 小山宏記(S.53) 土田 充(S.53) 長尾みどり(S.53) 庄村敦子(S.54) 三好英彦(S.56)
HPパート	・現在すでに存在している「東京玉翠会 HP」の管理・維持対応および新企画検討など。	土居範行(S.47)
総会パート	*幹事年度の、「横の繋がり・結束を強化する『場』」であり、東京玉翠会の老若の信頼の絆を理解するきっかけの『場』として位置づけ。 ・年次総会開催～式準備、動員指示、集金指示、当日差配など ・学年の自主性尊重：前例踏襲を排除し、学年幹事団の体力に合わせた総会準備活動が大前提。	卒業25年目 学年幹事 受付 卒業23年目 学年幹事
高高玉翠会パート	*高高、玉翠会本部・他支部との連携を強化することで、東京玉翠会の組織力、ステータスの向上を目指す。 ・高高との窓口。総会における高高関係者対応や東京地区への進学者の最初の組織化対応など。 ・玉翠会本部ならびに3支部との連絡窓口。総会における玉翠会関係者対応など。	大喜多俊彦(S.51) 佐藤ひとみ(S.51) 斉藤利幸(H.1) 山口 潤(H.6)
高中会 晩翠会パート	・高中会事務局との窓口。総会における高中関係者対応など。 ・晩翠会世話役との窓口。総会における晩翠関係者対応など。	小島豊子(S.43) 池上晴英(S.45)
同好会パート	・各同好会の活動状況の把握し、その活性化を企図するとともに、新サークル結成も支援。 ・総会における各同好会紹介など同好会活動の事務局的位置づけ。	植松 健(S.52) 神崎 俊(S.52) 野中真理(S.52) 合地仁美(S.52)

総会次第

(高松高校校歌演奏 ブラスバンド・TMC)

- 一、 開会の辞
- 一、 東京玉翠会会長挨拶 辻 義文 会長
- 一、 議事
 - 一号議案 役員改選
 - 二号議案 会務報告 (活動報告)
 - 三号議案 会計報告
 - 四号議案 監査報告
- 一、 東京玉翠会新会長挨拶 渡辺 修 新会長
- 一、 来賓紹介
- 一、 来賓挨拶
 - 玉翠会会長 多田野 久 様 (昭和25年卒)
 - 高松高等学校校長 溝渕 利博 先生 (昭和41年卒)
- 一、 図書購入資金贈呈
- 一、 鏡開き・乾杯
 - 香川県知事 真鍋 武紀 様 (昭和34年卒)
- 一、 懇親会次第
 - 1. 祝電披露
 - 2. ロバのパン
 - 3. 映像①高松の映像
 - 4. 映像②高松祭り～花火
 - 5. 選抜出場関係者挨拶 野球部・部長 渡辺浩一郎様
関西玉翠会代表幹事 國友美信様
 - 6. 第23回総会幹事挨拶
 - 7. 次回総会担当幹事 (昭和57年卒) 紹介
 - 8. 校歌・応援歌斉唱・応援団エール
(応援団・ブラスバンド・TMC)
- 一、 閉会の辞

個人情報に配慮し、プログラムの幹事名簿などは卒業年度と氏名のみとしました。

東京玉翠会に対する各種のお問い合わせは下記の電話番号にお願いします。

お電話いただいた方には、事務局よりご連絡いたします。

03-5685-4703

議案書

第1号議案：役員改選

役員改選 (61頁の役員名簿をご覧ください)

第2号議案：会務報告 (活動報告)

平成16年度活動報告(案)

平成16年度は、母校高松高校にとって、そして私たち東京玉翠会にとって大きな意味をもつ年度となりました。

総会の準備・運営の担当問題に端を発し、総会偏重、極論すれば総会のみが唯一の活動というそれまでの実態への反省から、事務局を拡充し恒常的な会の活動を下支える体制を整えて臨んだ年度でしたが、まさにこの事務局がフル稼働する状況が出現しました。

「文武両道」が高く評価され、21世紀枠による第77回選抜高校野球大会への出場。春夏を通じて71年ぶり、選抜大会には72年ぶりの快挙でした。開会式の後輩たちは8本線のストッキングの脚を高く上げ、男女二種類の校章を袖につけた腕を大きく振り、TAKAKOの胸を張っての堂々の行進でした。

そして高高はアルプス席からあふれる大応援団を送り出しました。東京からも600名を超える人数が甲子園に。この応援団を編成し送り出すために、母校、玉翠会本部、関西玉翠会と連携し奮闘した詳細は別稿をご覧くださいますが、高高は強豪宇部商業を相手に、ねばり強く試合し、純白のユニフォームは私たちの胸を熱くしてくれました。

しかもこれには後日談があり、高高応援団が最優秀応援団賞を受賞し、閉会式で表彰されたのです。表彰は17年4月4日でしたが、評価されたのは3月26日の試合での応援であり、まさに甲子園は16年度の掉尾を飾るにふさわしいできごととなりました。

このほかにも、母校の修学旅行の受け入れや他支部との交流など、これまでにない活動がありました。これらを含めた16年度の主な活動内容について下記のとおりご報告します。

記

1. 幹事会

- (1) 日時；(第1回)平成16年4月17日 14時～16時30分
(第2回)平成16年6月19日 14時～16時
- (2) 場所；(株)タダノ東京事務所 6F会議室
- (3) 出席者；会長、副会長、常任幹事、幹事、第22回総会幹事団
- (4) 概要；

第22回総会開催に向けて、基本方針、総会の内容、予算、準備の進捗状況等について総会幹事団から報告があり、審議の結果、幹事会に承認されましたので、これに基づいて準備が進められました。

2. 第22回総会

- (1) 日 時；平成16年7月10日 16時30分～18時30分
- (2) 場 所；ホテルパシフィック東京「萬葉の間」
- (3) 出席者；会員926人（来賓等を除く）
- (4) テーマ；「東京玉翠会再発見～新たな四半世紀に向けて～」
- (5) 概 要；

持ち回りで卒業後25年目の学年が総会の準備・運営に当たる従来の幹事団ではなく、事務局を中心として当該学年も加わった混成幹事団による異例の形態での総会となりました。

テーマに謳った「再発見」に込めた思いのとおり、東京玉翠会のあり方を会員各位に改めて考えていただく機会となったことを願っております。

この総会において辻会長から、残り1年間の任期満了をもって勇退される旨の表明があり、後任会長候補として渡辺修氏（昭和34年卒）のご紹介がありました。

3. 他支部との交流

○ 関西玉翠会第11回総会出席

- (1) 日 時；平成16年10月10日 16時～18時30分
- (2) 場 所；ホテルニューオータニ大阪「鳳凰 東中の間」
- (3) 出席者；事務局 高高・玉翠会担当1名
- (4) 概 要；

以前から、当会の総会には関西玉翠会から来賓のご出席をいただいていたのですが、先方からのお招きにもかかわらず、当会からは出席していませんでした。

事務局を拡充して、母校や各地の玉翠会との連携も深めようと企図しているところでもありますので、事務局から高高・玉翠会担当1名が出席しました。

総会の次第等、表面上の総会運営は東京と大きく異なるところはないように見受けられましたが、会計整理等の事務的な面では相違するところも若干あり、今後当会の参考となし得る収穫がありました。

4. 高高からの修学旅行の受け入れ準備

- (1) 日 時；（第1回）平成16年12月14日（この後も数回打合せを実施）
- (2) 場 所；大西法律事務所
- (3) 出席者；（高高側）修学旅行担当 田村先生、今井先生
（当会側）大西事務局長ほか事務局員5名
- (4) 概 要；

高高には以前から、修学旅行を単なる観光だけでなく公的機関や企業

等での社会見学・研修を織り込んだものにしたいとの構想があり、平成17年の旅行からこれを実施すべく、当会に協力を要請して来られました。

当会としても母校に協力するに吝かではなく、生徒の希望も踏まえつつ、卒業生の所属する組織で受け入れ先となり得る所を選定し、それぞれ担当者を決めて調整作業を進めました。

結果、10数箇所において修学旅行生を受け入れることが可能となり、平成17年6月23日に実現の運びとなりました。

当日の具体的な状況については、次回総会の平成17年度報告において述べさせていただきます。

5. 第23回総会準備

第23回総会については、従前の形態に戻って、昭和56年卒業の幹事団による準備が、例年にも増して早い時期から進められました。

そして、総会幹事団から示された基本方針、企画、予算等については、幹事会における審議・承認を経て実行に移され、本日の総会を迎えております。

○ 第1回幹事会

- (1) 日 時；平成17年3月5日 14時～17時
- (2) 場 所；(株)タダノ東京事務所 6F会議室
- (3) 出席者；会長、副会長、常任幹事、幹事、第23回総会幹事団
（本部、野球部甲子園出場後援会）多田野会長、箕田幹事

(4) 概 要；

a. 甲子園応援について

第77回選抜高校野球大会に21世紀枠で選ばれた母校の応援に行く希望者の数を確認し、当会として必要な入場券の枚数およびバスの台数を想定しました。

また、本件に関しても、会員との情報連絡は各学年の幹事を介して行うこととなるため、幹事各位に協力をお願いしました。

b. 第23回総会準備について

第23回総会開催に向けて、基本方針、企画、予算等について総会幹事団から報告があり、一部修正を経て幹事会の承認を得ました。

<参考>（平成17年度活動） 第2回幹事会（平成17年4月9日）

第3回幹事会（平成17年6月4日）

6. 甲子園での母校の応援（平成17年3月26日）

本件については別稿（15頁「72年ぶりのセンバツ！甲子園応援団編成顛末記【応援では優勝や!!】」）のとおりです。

平成16年度収支計算書(案)

自 平成16年4月1日
至 平成17年3月31日

東京玉翠会
会長 辻 義文

<特別会計>

支出の部		収入の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会場使用料	4,364,724	総会出席会費	5,435,000
会場運営費	455,169	男性 520人	
総会準備費	1,152,629	女性 314人	
母校寄付金	150,000	学生 92人	
プログラム制作費	465,500	寄付金収入	227,000
一般会計への繰入	1,213,253	雑収入	2,139,275
合計	7,801,275	合計	7,801,275

<一般会計>

支出の部		収入の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会議費他	345,054	前期繰越金	11,341,867
通信費雑費	54,871	預金利子	1,022
次年度立替金	2,000,000	特別会計より繰入	1,213,253
次期繰越金	10,156,217		
合計	12,556,142	合計	12,556,142

次期繰越金

内訳(イ) 百十四銀行東京支店		
普通預金 No.125044		5,132,001円
定期預金 (通帳式定期)	満期 平成17年9月7日	1,713,995円
定期預金 (通帳式定期)	満期 平成17年6月14日	2,129,873円
定期預金 (通帳式定期)	満期 平成17年6月14日	1,170,052円
(ロ) 手持現金		10,296円
合計		10,156,217円

脚注 東京高中会並びに晩翠会東京支部よりの受入基金1,500,000円は上記定期預金にて運用されています。

上記収支決算書について、監査の結果、適正なる事を認める。

平成17年5月15日

監事 岡内 伸一 (印)
同 松本 僑子 (印)
同 合地 仁美 (印)

別稿

72年ぶりのセンバツ！甲子園応援団編成顛末記

【応援では優勝や!!】

まず、最初に東京玉翠会の皆様、学年幹事の皆様、関西玉翠会幹事の皆様、そして高松高校関係者の皆様へ……今回の甲子園応援にあたり、不慣れな事務局ゆえ募金依頼から始まり、応援参加やバス利用の確認、入場券の手配等々、情報が二転三転したり段取りが侷ならなかったり「一体どうなってるんや？」野球の試合同様ハラハラドキドキご心配をお掛けいたしました事、誌面をお借りしましてお詫び申し上げますと共に、皆様よりいただいた励ましや御礼のお言葉に対してあらためて深謝申し上げます。

今まで私共49年卒学年幹事として岩崎昭宏君が、49年のみならず東京玉翠会の事務局総務の中心として、実にスムーズな本会の運営に当たってきたことはご承知の方も大勢居られる事だと思います。そこに名前だけの幽霊幹事であった私「北村」が突如として現れ、今回の甲子園応援団編成なる一大事をしなければならなかったのか、そこからお話を始めたいと思います。

『晴天の霹靂とはこの事!!』

2005年1月31日、我等が母校の「タカコウ」野球部が春の甲子園センバツ大会に選ばれた日であります。しかも、野球以外の活動も認められ、他校の模範となる文武両道が評価されての21世紀枠での選出でありました。(予想通り!)

昨秋の香川県大会での準優勝の成績から、ひょっとしたら甲子園にいけるかも？と淡い期待を同期幹事の岩崎昭宏君よりメール連絡を受け、「決まったら寄付くらいはせないかな」とか「新年会かねて甲子園出場お祝い会を同期でやろうな」と彼と話しておいた次第です。そんな岩崎君に、1月末頃から、バタッと連絡が途絶えるという事態が発生し、「何か異変が？」と心配していた矢先、彼の奥様より連絡が入り「主人が怪我して、当分入院なので、北村さんに49年の今年の総会取り纏めをお願いしたいと申しておりますので、よろしくお願ひします！」本人は電話も出来ず、代りに奥様が急遽あちこちに連絡をされている大変なご様子であり、詳しい状況はわからないまでも、相当長期間休まざるを得ないことだけは判りました。

同じような連絡が東京玉翠会事務局長の西昭一郎先輩(33年ご卒業)の処にも為されていたようで、私がおっとり刀で西先輩へ連絡した際には、すでにご存知のご様子、「甲子園の寄付や応援について高松からの依頼があるので、彼の代りに、事務局の打合せに出てくれないか？」との西事務局長の命により、私にとっては殆んど初めての事務局会議に出席したのが本年2月8日19時の事でした。集まったメンバーとは以前より面識はありましたが、西事務局長、三崎屋義正先輩(34年ご卒業)の他は、50年以降卒業の精鋭諸氏面々。訳の判らぬまま会議室の端席に座り、役割分担を決めようかという時、三崎屋先輩より「北ちゃん、頼むな！」と諭すように云われ、今後の連絡を担当

する幹事学年を参加者に割り振りしたのが運のツキ、いや今回の顛末の始まり！

49年卒を取り纏めるつもりで参加した筈が、いつしか全体を取り纏める立場に変わり、甲子園なんて四半世紀も前に当時京都にいた私が妻と結婚前にデートで行ったことがあるくらいで、当然よく覚えておらず、「まあ、なるようにしかならんか」と生来のいい加減さと申年のお調子者の気軽さで、やらざるを得ない羽目になった次第であります。

〇〇〇〇詐欺に間違われる？

まず、事務局として、手掛けなければならなかった事が三点。一つ目は2月中旬に高松より各玉翠会員に郵送されてくる趣意書同封の募金の依頼、昨年後半より流行ってきた「〇〇詐欺」がすでに甲子園出場決定直後に高松高校関係者にも及んでいる由。こういう詐欺ではありませんよと、卒業生の皆さんに注意を促しながら連絡するのですが、逆に「そういうのが一番怪しい？」と疑われた事務局員も数名。私も同期の方より、3年時のクラスや所属クラブの確認を受ける有り様、我が身を反省（トホホ！）でありました。（注）大半の方は快く引き受けて下さいました。

次の難題が応援参加の確認です。まだ試合日程も決まっていない2月の段階で（3月15日抽選で決定）甲子園に行くか行かぬかと云われても返事のしようもなく、されど相当な盛り上がりが見込まれる為、入場券や応援準備の目途をつける必要もあり、やむなく第一次の参加者確認を行った訳です。

更に難題が、応援に行く場合、バスを利用するか否かであります。「行けるかどうか判らんのに、その上、バスで行きますか？」「たいがいにせえよ！」とのお叱りを覚悟しつつ、言わば、皆さんの応援にかける熱意を拝聴する姿勢で学年幹事さんへの連絡をお願い致しました。

3月5日第一回学年幹事会での集計では、応援参加者436名（内訳、バス便146名、その他290名）という中間結果を受け、東京応援団500名／バス4台と高松高校へ連絡した次第です。この時点では、高高としての応援の骨子が固まりつつあり、高松より玉翠会本部多田野久会長（25年ご卒業）と箕田俊介幹事（41年ご卒業）にもこの幹事会にご出席いただき、高高チアガール結成の話や三菱重工業会長の西岡喬先輩（30年ご卒業）のご好意により同社神戸グラウンドを練習用にご提供戴ける等72年ぶりの甲子園の話題で幹事会は大盛況となり、その後の懇親会がどうなったか、ご報告するまでもない位！大宴会。（注）甲子園は71年前の夏の大会に出場しており、正確には春の大会が72年ぶりだそうです。

お陰で幹事会本来の総会議事の時間が大幅に短縮され、56年幹事の皆さん、申し訳ありませんでした。56年代表幹事の三好君は、この議事短縮のせいで熱が出て2週間寝込んだとか？

事務局の三種の神器

今回の連絡で大きな武器になったのが、パソコン・携帯電話・電子メールによるメーリングリストです。（一昔前なら、電話とFAXに手書きの書類）3月に入りますと、

参加者把握や応援体制、入場券手配、その受渡し、新たな役割分担、バスの中の弁当や飲食の手配（酒を出すさぬとか、バス内禁煙か否か）果てはアルプス席でアルコール販売の有りや無しや等々、誰も判らない手探り状態から一つ一つ疑問点を話し合い、解決し、情報を共有するという認識が事務局内部に生まれ、その為の通信手段が前記の3種の神器（？）です。これには高高で東京との窓口になっていただいた丸谷幸彦教頭先生（46年ご卒業、本年4月より笠田高校の校長先生にご栄転）も、今まで眠っていた携帯電話を取り出して、朝な夕なの小生との連絡に使い始めたとお聞き致しました。

（注）丸谷先生には朝晩の時間を厭わず、ご自宅まで連絡を取り合っていたいただき、本当に有難うございました。ご家族の方にも宜しくお伝えいただきたいと思います。

さあ、3月15日、抽選会の日です。事前の情報で午前10時頃、試合日と対戦校が判明するとの事で、仕事もそれに合わせて段取り良く、パソコンの前でインターネット検索、「大会3日目第一試合、相手は宇部商業」順調に行けば3月25日（金）9：30開始ということです。皆に知らせなきやとの責任感から、事務局内メールを送信した処、ほぼ同時に同じ内容でメールが3件！他の2人がどういう理由から送信したかは定かではありませんが、結局、「タカコウ」が好きで仕事が手につかなかったのでしょうか。

試合日程が決まり、いよいよ応援参加者の確定作業と東京からの応援手引きの配布です。応援の手引きは53年小山宏記君、参加者名簿は53年土田充君の両名が（今回、この両名の寝食を忘れた？姿には感銘！）夫々担当して作成したものをベースに、再び学年幹事ルートでの案内と集計です。全て事務局宛メールは全員が閲覧できる仕組みで、これをメーリングリストと言うそうで、その他にも平成の三種の神器には驚きの連続で、とても誌面ではご紹介できない話も多く、悪しからず。

浦島太郎にお手伝い叶姉妹（カノウ）やその妹、幻の猫の手も出現!?

抽選日の15日以降、予定通り(?)雨による順延で1日延びて試合日の26日までの最大の関心事は入場券の配布方法になりました（タカコウが試合で勝ってくれることは当然祈りつつ）。バスで行く方にはバス内で配布できますが、それ以外で行く方には、どうするか？当日配布は大会本部より甲子園球場前の「5号スパン」なる場所が指定され、しかも500枚限定なのです。どう考えても500枚で間に合う筈がなく（その頃、関西の同期幹事とも毎日の連絡の中で、関西は700人参加で事前に券を郵送するとの情報あり）、高高・関西との連絡の結果、①事前配布・3/18午前中に入場券を高高より大西事務局長の事務所へ届けてくれることになり、同日午後より配布する。また、試合前日までなら大阪での野球部宿舎となるホテルでの配布②阪神甲子園駅近くのホテルを借り、当日朝の集合目印兼配布場所とする（これには、大会本部の許可が必要でしたが、ホテル側より満室の為断られました）③「5号スパン」で配布、以上の3段階の配布とする事にして、また、メールによる案内送信です。（注）文章にすると、一遍に決まったようですが、実際には一つ一つの事柄が決まったり、変更されたりするとその都度メール送信で、この頃1日のメール数は数十件になり、ほんの2～3時間目を離すと、送信されたメールの意味が判らず、まして2日も離れると浦島太郎状態で、とうとう見るのを諦め

た事務局員も数名。残念!!

ただ入場券の受渡しは事務局員共通のテーマのようであったらしく、上記のように3段階配布にすると夫々に人を配置する必要に迫られ、私とは築地幼稚園からお付き合いの大嶋匡博君(49年卒)まで借り出す姿に、さすがにこのままでは北村さんが逝かれてしまうと思われたのかどうか判りませんが、「私も配布のお手伝いします」「バス見送りに行きます」と後輩諸氏より次々に「お手伝いカノウ姉妹」やら「その妹」と称して或いは「猫の手でもお役に立てるのであれば」等と有り難いお手伝いの申し出を受け、さすが『高高OBや!』と感銘した次第です。

甲子園の応援に行こうと言う方は、試合日が近づくに連れ増加する一方で、事前配布の案内が行き届き過ぎたのか18日の入場券到着するや否や配布場所となった大西法律事務所では、入場券を手に入れるための行列ができたとか(これが本当の行列が出来る法律事務所?)事前の見込みを上回る勢いで配布された為、22日朝慌てて配布を中止し(この時点で入場券の残数とバス参加者が244で一致)、高高へ特別内野自由席入場券の追加100枚をお願いするも最終的にはこの100枚も完売し、事務局把握数で参加者600名を超える大応援団が甲子園に行くこととなりました。(詳細は後記一覧表をごらんあれ)この間も「インターネットで見たので、どうやって行けばいいの?」とか、「今まで玉翠会に参加した事が無かったけど、これを機に参加します」とか幹事ルートとは別に飛び入りで甲子園に行かれた方の数知れず、参加された多くの方に感謝申し上げます。

23日開会式が終わった直後、雨で順延となり、順延ケースは織り込み済だったとはいえ、23~25日の事務局員の奮闘は、私の拙い文章では語る事の出来ない壮絶な仕事ぶりだったと拝察します。後日、慰労会を開催した折、ある方より「最後の2日は、会社に居ても仕事にならなかったですよ」と本来の職務を犠牲にしてこの甲子園応援団編成に関わってくれたかと思うと、目頭が熱くなりました。S君の会社の皆さん、すみませんでした。こんなことはもう暫く無いと思いますので、許してあげてください。

※甲子園も決勝戦が終わるとオシマイと置いていたら、ビッグニュース!タカコウが応援で優勝(最優秀賞)!!本当にやって良かったと報われた瞬間でもありました。

まだまだ皆さんにご紹介したいエピソードは一杯あったと思いますが、近い将来、甲子園のみならずいろいろな分野で「タカコウ」の名前が全国に響きわたることを祈り、最後にこの騒動に関わった事務局員の健闘を称え、そのお名前を記して終わりにしたいと思います。

東京玉翠会事務局長 大西昭一郎さん(事務所職員の方々にもお世話になり、有難うございました)

43年卒 小島豊子さん(急な代打要請にも嫌な顔せず、引き受けて下さり有難うございました)

47年卒 土居範行さん(玉翠会HPでの、幹事ルート以外のご対応有難うございました)

49年卒 大嶋匡博さん(幼稚園からの誼みで、急遽引っ張り出してきてスマン)

50年卒 中山易典さん(今度、帰国したら、頼みますよ)

51年卒 大喜多俊彦さん(バスの責任者として、色々気遣ってくれて有難う)

52年卒 植松 健さん(貴兄からの連絡担当の申し出嬉しかった)

52年卒 神崎 俊さん(丸ビルのバス見送りや試合後の電話嬉しかった)

53年卒 土田 充さん(緻密な気配り、有難う、ゆっくり寝てください)

53年卒 小山宏記さん(各方面に神経を使って大変だったでしょう)

54年卒 庄村敦子さん(忙しい中、最初の貴方からの申し出嬉しかった)

56年卒 三好英彦さん(総会幹事と掛け持ちで、時々総会の事も尋ねられたけど、ゴメンね)

63年卒 奥本和幸さん(丸ビルでは大活躍)

H1年卒 斉藤利幸さん(両国での議事録作成から助かりました)

今回は諸般の事情により陰乍ら応援する方に回った事務局の方々、並びに東京玉翠会年度幹事の皆様、総会とは別の活動にも関わらず、各学年の取り纏めでお骨折りいただき有難うございました。

心より御礼申し上げます。

甲子園応援団編成特別代打
昭和49年卒 北村篤孝拝

第77回選抜高校野球/東京玉翠会応援参加者集計(3/24締切り)

	バス参加	入場券のみ	3/24計		バス参加	入場券のみ	3/24計		バス参加	入場券のみ	3/24計
高中	3	4	7	昭和42	1	21	22	昭和62	1	19	20
晩翠			0	昭和43	2	12	14	昭和63	4	19	23
昭和24	1	1	2	昭和44	7	2	9	平成1	4	19	23
昭和25	4	1	5	昭和45	5	8	13	平成2	3	5	8
昭和26	0	0	0	昭和46	7	11	18	平成3	0	4	4
昭和27	9	11	20	昭和47	8	9	17	平成4	0	4	4
昭和28	0	0	0	昭和48	5	3	8	平成5	3	11	14
昭和29	2	13	15	昭和49	5	1	6	平成6	3	1	4
昭和30	3	7	10	昭和50	8	12	20	平成7	0	18	18
昭和31	5	5	10	昭和51	10	16	26	平成8	0	0	0
昭和32	4	3	7	昭和52	3	17	20	平成9	2	0	2
昭和33	2	2	4	昭和53	9	5	14	平成10	1	0	1
昭和34	6	6	12	昭和54	7	8	15	平成11	2	1	3
昭和35	15	3	18	昭和55	1	12	13	平成12	0	0	0
昭和36	0	1	1	昭和56	4	23	27	平成13	3	3	6
昭和37	4	13	17	昭和57	7	9	16	平成14	5	0	5
昭和38	9	3	12	昭和58	7	2	9	平成15	3	4	7
昭和39	3	6	9	昭和59	2	3	5	平成16	0	2	2
昭和40	3	4	7	昭和60	2	16	18	合計	224	395	619
昭和41	11	2	13	昭和61	6	10	16				

※当日の参加者数はこれを上回るものと推測されます。



卒業インタビュー

女優 高畑 淳子さん

宇高連絡船で故郷へ帰るたびに、「今度こそ、今度こそ」と思いながら海を渡っていったのを、一番よく思い出します。

女優、高畑淳子さんは昭和48年の卒業。多彩な役柄を演じ分けられる女優として、舞台、映画、ドラマ、そしてバラエティーにと、活躍の場を広げている。高畑さんに高松での思い出と、女優としてのこれからを聞いた。

瀬戸内海とうどんの味

父がゼネコンに勤めていて、大体1年で出来上がる病院や学校、スーパーマーケットなどをつくっていた関係で、小学校時代は1年おきに、新居浜、徳島、高知、普通寺、高松と四国中を転校していました。小学校5年の時、太田小学校に転校してきたのですが、小学校前に文房具屋さんが2軒あり、小さい頃は文房具屋さんになるのが夢だったこともあります。いろいろな面白いものが置いてありましたから。中学・高校時代は父が単身赴任するようになって、高松で過ごしました。

「何を食べたい？」と聞かれると、やっぱりすぐうどんになりますよね。この頃は東京でも讃岐うどんの店が増えてきましたが、東京のうどんは黒い汁で、最初「何かの間違いか？」と思いました(笑)。高松高校では学生食堂のうどんが美味しくて、よく食べていましたね。

こんな仕事を選んで、上京して最初の10年くらいは全然芽が出ませんでしたから、宇高連絡船で故郷へ帰るたびに、「今度こそ、今度こそ」と思いながら海を渡っていたのを、一番よく思い出します。「もうそ

ろそろやめるべきかな。いや30歳までは頑張ろう！」と。

しかし、連絡船のうどんは美味しかったですねえ。どうっちゃんない味だと思うのですが、海を見ながらの味がまた格別で。連絡船、どうしてなくなってしまったんでしょう。

昨年の夏、仕事で高松に行ったのですが、瀬戸内海はやっぱりきれいだと思いました。あんなにきれいな島と海だったんだなあ、この年になってあらためて思いましたね。若い頃は気付きませんでした。

自分にしかできないことを

桜町中学では水泳部で背泳の選手でした。当時、桜町中学にはプールがなく、紫雲中学まで自転車で通って、コースを借りて練習していました。桜町はプールもないのに強くなり、高松市で団体2位になりました。

高松高校では、バドミントンコートを見下ろす、風通しのいい4階の教室に朝早く行って勉強していました。高校に入ってから、水泳の記録も伸びず、勉強もまあ、中の下。何をやっても中途半端で、「自分にしかできないことをやりたい！」と思っ

て選んだのが女優の道だったんです。

小さい頃から絵とか音楽とか、自己表現みたいなものに興味がありました。人前に立ちたいという気持ちや、目立ちたがりな性格もあったかもしれません。大学進学にあたって、中学から水泳くらいしかやっていなかったですから、絵や音楽の道に進むのは難しい。まったく何の素養もなくても行けるのは演劇学校しかなかったんですよ。

長い下積み時代を経て、女優として大きな転機になったのは、俳優の加藤健一さんが誘ってくださった舞台「セイムタイム・ネクストイヤー」でした。この作品に出会わなかったら、女優はやめて田舎に帰っていたと思います。私は負けん気だけで頑張ってきましたが、頑張り屋なところがかえってあだになっていたようです。自由なことをやりたくてこの世界に入ったのに、何でも人に言われた通り完璧にやろうとして、いつの間にか自分をがんじがらめにしていました。「セイムタイム・ネクストイヤー」は、それを解き放ってくれました。

今はいろいろ仕事も増えましたが、無理をしているなと思ったら、やめようと思うんです。バラエティー番組でも私は芸人ではないし、楽しくやれる間だけやらせていただくように。仕事が趣味兼遊びなので、こういう仕事を選んでよかったと思います。仕事をしているときが一番楽しんです。

「大事でないことは捨てていく」勇氣

優等生の悲劇ってあると思うんですよ。賢い子は「したらいかん」と言われることはしないでしょ。でも、お芝居には弱いところを持った人間、不器用にしか生きられない人たちがいっぱい出てきます。人間はそういう愚かなところも含めて、いとらしい生き物なんだと。何も恥ずかしがることはないんだと。50歳も過ぎて、そういう境地にやっと至れました。

私の好きな言葉で、「運・鈍・根(うん・どん・こん)」という言葉があります。人生には運も根性も必要です。そして、鈍とは「鈍感」であること。一生懸命になるばかりじゃなくて、何か大事なことのためには、「回路を切っていく」ことも大切なんです。今の世の中ってつらいじゃないですか。あまり考えすぎると苦しくなる。特に、都会の生活は気持ちがおかしくなってしまうくらいなところもある。高松高校の卒業生は、自分も含めて真面目すぎるところがあると思います。大事なことのために、大事でないことは捨てていく勇氣も必要だと思います。

“変身”はライブ感覚

私は変身願望が強くて、違う人間になるのが好きです。人間って多面的なもので、自分の中にはいろんな部分があるじゃないですか。普段は気付かないでいることが多いと思うのですが、そういう部分を発掘して、拡大して役作りをしています。やりすぎてしまうことも多いんですけど(笑)。これからもこの役に挑戦してみたい、と思える役をやっていきたい。

テレビや映画といった映像の仕事では、画面やカメラワークに身を任せて「調理してもらおう」ことが大切です。一方、舞台は自分でフォーカスやアングルをつくり出して、自ら演出するもの。そこには一種のたくらみがあります。それが映像と舞台の全然違うところですね。

いろいろな仕事の中で、一番やりたいのはやはり舞台です。舞台ではお客さんと一緒にスタートして、お客さんと一緒に幕を下ろしてゴールすることができます。それは水泳と同じ“ライブ”感覚なんですね。これからもできるだけ長い間、元気で舞台に立ち続けたいです。

(取材・構成・撮影/昭和56年卒 森 幸茂)

プロフィール 高畑 淳子(たかはた・あつこ) 1954年、香川県に生まれる。桐朋学園短大演劇専攻科修了後、76年に劇団青年座に入団し、舞台女優として活躍。「越路吹雪物語」の作詞家岩谷時子役で、2003年第11回読売演劇大賞優秀女優賞受賞、2004年第29回菊田一夫演劇賞受賞など受賞多数。公式ホームページ: <http://members.jcom.home.ne.jp/atsuko1011/>



特集 世代を超えて共有できる讃岐の思い出

ふるさと「セカチュー」の町からこんにちは！

昭和35年に高高を卒業され、昭和38年から59年まで、生物の先生として、高高で教鞭を執っておられた木村斉先生。足にハンディキャップを負いながら、サッカー部の顧問として活躍されたことを覚えておられる方も多いでしょう。先生が、ご自身の体験をもとに書かれた『足物語』は今でも感動を呼ぶ良書として広く読まれています。先生は、現在退職され映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地としてお馴染みの庵治町にお住まいです。木村先生をお願いして近況をお寄せいただきましたのでご紹介します。

昨年の流行語大賞の一つに「セカチュー」なる言葉のあることは、皆さんよくご存じのことでしょう。純愛をテーマにした片山恭一の小説「世界の中心で、愛をさけぶ」は、映画化もされ、両者が相乗効果を生み出し大ヒットして、社会現象ともなりました。

映画のロケ地として私の住む庵治町が選ばれ、今や全国各地から「純愛の聖地・庵治」を見たい!!と年齢を問わず大勢のカップルが訪れています。

庵治はわずかに六千人余の典型的な少子高齢化の「石と魚の町」ですが、もはや県内外から十万人を越す人々が訪れたとも聞こえてきます。見たこともない遠方の県外ナンバーの車がひしめき合って、純朴な町民たちはびっくりさせられています。

私は退職し現在フリーなので、高高時代の教え子たちが「ガイドをして!!」と、大勢

これが日本一行列のできるブランコ。美人女医の教え子と。

やって参ります。高高OBといえども、庵治町を散策した人はほとんどおらず、私のロケ裏話をまじえたお笑いガイドは大いに喜ばれています。

なかでも人気スポットは、屋島を眼前にした防波堤や五剣山・庵治湾が一望に見渡せる高台の皇子神社です。ここには、主人公のサクとアキが乗るブランコがあり、これに乗りたいて言ってやって来るカップルは後を絶たず、雑誌アエラでも「日本一行列のできるブランコ」と紹介されたほどです。



さらに、私と親交のある森繁久彌氏の兜島やロケに使われた夢島（稲毛島）などもお教えして喜ばれます。

県庁所在地高松市のすぐ近くに、こんな素朴で素敵なお店があったのか!?と初めての来訪者は大いに驚きます。三方を海と山に囲まれ、複雑に入り組んだひなびた町並みを残し、石屋のツチ音と漁船のエンジンがのどかに響く、人情の細やかなこの町も、来年一月には高松市と合併します。これからは、高松市庵治町として一層魅力ある町づくりを目指します。

皆さん、ぜひ「石と魚とセカチューの町」へおいで下さい。お笑いっぱいの楽しいセカチューガイドをして差し上げますよ!!

(昭和35年卒 木村 斉)

特集 世代を超えて共有できる讃岐の思い出

桜八幡神社石段で、取材の小豆島高校生たちと



「セカチュー」の映画で「秋山電気店」として登場した「谷商店」

嗚呼、懐かしき我が讃岐弁 ～総会直前讃岐弁講座～

高校を卒業して高松を離れた頃、私には何が方言で何が標準語かの区別がよく付きませんでした。ちりとりやちりがみは標準語でもちり箱やちりしは讃岐弁という事実はかなり後になって認識したことです。それから英語の授業で looks like～を～げなとか、現在進行形、現在完了進行形、過去完了進行形と複雑になると、雨が降りよる。降りりよった、、、と真面目に讃岐弁で納得や理解していた自分を懐かしく誇りにさえ思います。在京讃岐人の皆さんも色々な思い出をお持ちに違いありません。錆びかけた讃岐弁スキルを再起再生させる為に気になる讃岐の方言を、以下に集めてみました。

- ◆～讃岐の方言～◆ 単語集
- 【(腹が)おきた】 = 一杯になる
 - 【(机を)かく】 = もちあげる
 - 【(水が)まける】 = こぼれる
 - 【(家に)いぬ】 = 帰る
 - 【どくれる】 = ふてくされる
 - 【はじかい】 = むずがゆい
 - 【むつごい】 = 味がくどい
 - 【がいに】 = とても
 - 【はがましい】 = 歯がゆい
 - 【まっつい、まっつくつい】 = 全く同じ

- 【ぶいぶい】 = かなぶん(虫)
- 【とりのこ用紙】 = 模造紙

さて、だいぶ思い出してきたところで、それでは、問題です。生粋讃岐人の以下の言葉を訳してみよう。

「卒業して東京で皆なんしょんな。ごじゃしよらんのお。あののお東京に がいにうまげなうどんがあるんはええんやけどのお、讃岐弁忘っせたほっこげなんおるんはいかんわのおー。もうわやや。いよいよよんならんがあ。くらっしゃげてやいとす。ほんだら、ふうが悪いけんのお、たいぎでだいけどなんじゃかんじゃ教つてあげるし、かまんのなあ、おかつこまいして聞いてまんでがん思い出していたのお。ええのお。たすいんやけんこ こんまいこと気にせんめんとめんでさいさい使いまいの……」

ちょっと難解?

でも私の一番スキなのは、仏語響きのなんしょん、中国語響きのしゃんしゃん、独語響きのまんでがん、英語響きのじょんならん、無国籍のちゃうんちゃうん、です。

さあーて、「故郷(ふるさと)の訛(なまり)懐かし停車場の人ごみの中に そを聞きに行く」、と石川啄木の気持ちで行く? いいえ、今年の総会では讃岐弁を自分自身(めんめ)で使わんといかんのとちゃうんちゃうん……

(昭和56年卒 小西英登)



ああ青春、懐かしの高校時代

ふるさと香川を遠く離れ、各地でご活躍の皆さん。「そういえば久しく帰っとらんなあ」とか「久しぶりに帰省したら、高松がえらい変わってびっくりしたわ」という方が多いのではないのでしょうか。そこで皆さん、ちょっと振り返ってみませんか。高校生だったあの頃を。歴史を感じる校舎の階段、ホームルームで行った栗林公園、学校帰りにそぞろ歩いた南新町商店街…それぞれに色々な懐かしい思い出がありますよね。というわけで、OBのみなさんに、高校時代に心に残った思い出を、川柳に託してお寄せいただきました！

●高校野球も忘れちゃならない思い出
*田中規 穴吹で届かなかった 甲子園

*決勝戦 再々試合で 涙のじ
*72年の 無念！の歴史や 世紀杯
—— 春甲万歳

〔作者注〕田中投手は 北四国大会決勝戦で延長18回を投げ、1-0で破れた。穴吹は元南海の名選手、入団経路が映画になった。昭和32年(?) 秋決勝で2回延長引き分け、再々試合で高商・山口三塁手(阪急ブレーブスの4番)の豪打に破れた
*グラウンドを這いながらみる屋島山
—— 本田博之

〔作者注〕陸上部だった僕は、毎年夏合宿や総体前の合宿で屋島へ行っていました。競技場のトラックを死ぬほど走らされた後に、グラウンドへ突っ伏してゼーゼー言いながら顔をあげる。そこに屋島山が霞んで見えたことを思い出します
*甲子園 初戦で負けても 応援賞
—— ハッピー援ド

〔選者注〕言わなくてもですが、今年2005年春の選抜を詠った句。試合は1回戦で涙をのみましたが、OBたちの熱い応援が称えられました。それにしても応援賞があるなんて初めて知りましたよね。
*甲子園みるか 相撲か 万博か
—— それとも孫カライブドア

〔選者注〕話題の多い2005年春でした。

●戦中・戦後、辛酸を極めた学生時代。
貴重な歴史の証言集

〔勤労動員の思い出〕
*鉢巻を きりりとしめて 工場へ
*乙女たち 板金工に 早がわり
*挺身隊 もんべ履いたる 自衛隊

〔戦時中の思い出〕
*白線に あこがれ入学 モンペ服
〔選者注〕スカートのワランに憧れて入学したもの、すぐに戦時体制に。おしゃれどころではなく、モンペ姿で通学したそうです。

*茶煎髪 奉安殿に 最敬礼
*晩翠会 聖域のようで 近づけず
*「カシラミギッ」 おかげで首がよく廻り

*名園の 芝生おがして 芋を植え
*ノート捨て 芋と粥とで 戦後の守り
*上履きの さしむ音懐かし 体育館
*茶道室の エイッエイと振る
なごなた稽古

*英語授業 時間割から 消えてゆき
*上級生 可愛い子とは S関係
〔戦後の思い出〕
*終戦で 万歳叫ぶ 胸の内
*新体制 教科書に墨ぬり 間に合わせ
*知事さんに 「教室返せ」と 初陳情
*笹に雪 じつところえて 今がある

*戦災で 衣食住最悪 飯校舎
—— 以上 76歳晩翠会一同

●やっぱり讃岐！ うどんの思い出
*学食の うどんを吸る おちよぼ

—— 家では三口
*あの娘はね 一本ずつに うどん食べ

—— 学食淑女
*かつおぶし 香りなつかし 学食うどん

—— 栄養失調児
*樟若葉(くすわかば) 香りなつかし
十円うどん

—— 浦島太郎
〔作者注〕同窓(34年卒)からの注あり。当時の学食うどん代金:何も入れないおうどん(ねぎとかつおぶしぐらい入っていたかしら?)が10円で、てんぶら入りは、15円でした。うずら豆のような豆入りが私たちが仲間で、好評でした。時々話の種になります。

●青春時代、勉強ばかりじゃあね…:
淡い初恋ネタ!

*文化祭 ダンスの相手を ストーカー

—— O(ギョ)ン(ク)ワクワク
*あづま屋の うどんを食べる 初デート

—— パフェ追加
*通学の 朝にまぶしい 明善生

—— 識別不能
*文化祭 一度は行きたい 明善校

—— ほっこり
〔選者注〕いつの世も、女子高生に憧れるのは男子生徒の常でしょうか。あぶれた私たち(女子)はどうすりゃいいの…:

●あるある、こんな思い出
*修学旅行 急に彼女が ほしくなり

—— パンプキン56
*二時間目 済んだらすぐに 購買部

—— パンプキン56
*早弁と 学食うどん 午後うつつら

—— 午後は船頭
*初めての フォークダンスで 赤くなり

—— 童貞
〔選者注〕ああ純情……。今は……?

*「小さい」を「ちさい」と言うて 笑われる
—— 沖野理
〔選者注〕「ちさい」は広島弁。他県から入学された方たちは、方言の違いで苦労しましたよね。

*もったいなくも にせプリンスという紳名
—— 沖野理
〔選者注〕さぞかし美男子だったのでしょう。若い頃にお会いしたかった！でも二セってことは……?

●こんなはずでは…編
*玉翠会 いま声かけたん あれ誰や

—— ぼけなす
〔選者注〕スリとした体型、サラサラフサフサの髪が君はいずこに? 年月とは残酷。

*中学の 成績懐かし 今いずこ
—— パンプキン56

〔選者注〕小学校では神童、中学校では秀才と呼ばれたのに……。高校で初めての挫折を感じた人たちは案外多かったですね。大学でも社会人になってからも打ちのめされ……。でも、最後にや勝ち組?

*死語となる 戦後の守り 赤トンボ
—— 安達恵美子

〔今も語り合う、高校時代の思い出〕
*布袋腹 食糧難を よく語り

*海老腰の 老婆ももとは 柳腰
*亡き友は 今もセーラー服のまま

*玉翠会 白髪を染めて 友と会う
—— 以上 21・22卒一同

*県女卒 振り込め詐欺には あいません
〔選者注〕良妻賢母の教育をしっかりと受けてきた高松高等学校の卒業生たち。甘く見てもらっちゃ困ります!

*雪もち笹がしるべの我が人生
—— 永野精子
●最後の決め句は…:
*半世紀 変わらぬ絆 ありがとう
—— 沖野理

〔ご投稿いただいた方々(敬称略)〕
昭和21・22卒一同、76歳晩翠会一同、安達恵美子(76歳晩翠会)、藤本博司(昭和30卒)、富川光雄(昭和32卒)、永野精子(昭和27年卒)、樽本勲(昭和34卒)、三好英彦(昭和56卒)、本田博之(昭和57卒)

特別参加・昭和32・33年度高高教諭 沖野理
皆様、大変ありがとうございました。



飲み倒れ! 蔵元めぐりの旅

ビール、缶チューハイ、そして焼酎ブームにおされ、日本酒の生産量は年々下降の一途をたどっているという。最盛期には全国に7000あった蔵元も今では1500程度、香川県でも35、6軒あったのが今では12軒に減っているという。自社で蔵を持って酒造りをしている蔵元となるとわずか4軒。しかし、驚くことなかれ、日本の醸造技術は、焼酎はもちろん、ワインなんか及びもつかない、世界に冠たる高度な技術なのだ。そして、さらに驚くことなかれ、四国のお酒は、全国新酒鑑評会で金賞の受賞率が全国一なのだとか。

とはいえ、メジャーどころに押されて居酒屋でも讃岐のお酒を目にするのはめったにない。せっかくいいお酒を造っているのにもっと応援できないか!? というわけで、今回の東京玉翠会総会で、樽酒のご提供をいただくなど、多大なご協力をいただいている、讃岐の蔵元諸氏を尋ねることにした。

■ことのはじまりは

突然ふっつわいた「蔵元めぐり」の企画。もともとは、「蔵元さんから総会を支援していただくお礼に、讃岐のお酒をテーマにしたページをプログラムに入れよう」という程度の企画だった。ならば、地元で酒販店「ひさ〇と」を営む先輩のS氏に原稿をお願いすれば、と編集メンバーで決定。さっそく打診すると、「ただ原稿を書いてもおもろくない、どうせなら、案内するから蔵元めぐりをして、きき酒してどんどん酔いつぶれていく様子をレポートしたらどう?」との言葉。下は保育園児から上は中学受験生まで3児の母である私にはヘビーすぎる企画。その旨S氏に伝えたら、「それやったらメンバーを募ってツアーを組んで、ノリのええ奴に書かせたらよろし」と更に大がかりな企画に…。こりゃ逃げられへんと観念し、試しにメンバーに投げかけてみると「そんな経験めったにだけへん」「面白そう」と好反応。そう言われるとなんだか私も行きたくなるじゃん! というわけで、GWの最後の2日間、56年卒の三好、池内、菊池、佐藤、そして私の5名がツアーに出発した。

■まずはうどんで腹ごしらえ

朝6時、集合場所に先輩のS氏が8人乗りのワンボックスカーで登場。さっそく乗り込み、高速をひた走る。私にとっては20数年ぶりの故郷。ずいぶん変わってはいないものの、関東では見ることのない水田や、間近に迫る小さな山々。讃岐ならではの里山の風景。しばし感慨に浸っていると、田んぼのど真ん中、という感じのところまで車が止まる。ここに「朝6時からうまいうどんを食べさせる店」があるという。しかし先輩がずんずん入っていくのは古びたよろずや。「これ全部賞味期限切れちゃう?」というような商品が無造作に並ぶ。が、しかし、なんと奥には厨房があり、もうもうと湯気をたてている。小さなテーブルにわんさか人がいて、無心にうどんをすすっている。目の前の細身の男性が、「大盛りおかわり」とフツフツに言っているのに度肝を抜かれた。われわれも気を取り直して席につき、「並」のかけうどん

を注文。透明な出汁に葱としょうがだけがのったシンプルなうどん。あ〜おいしい、あったまる〜、としみじみ味わっていると、ほかの6人は一瞬にしてペロリ。一番細身の菊池すらとっくに食べ終わり手持ち無沙汰のようす。そうだ、うどんはかまわずに食べるんだって! 私もあわてて完食。

■手造りにこだわる「川鶴」

http://www7.airnet.ne.jp/kontatsu/kuramoto/kawaturu/g09_main.html

さて、蔵元めぐり1軒目は、川鶴。創業者が財田川に鶴が舞い降りる夢を見たのが「川鶴」の由来。昔、このあたりは渡り鳥の飛来地だったらしい。

6代目という若きご主人の川人裕一郎さんにお酒ができるまでの工程をご説明いただく。川鶴は今年で115年目を迎え、つい先ごろ、115回目の仕込みが終わったという。お酒の仕込みは11月から3月に行われ、この期間は杜氏と呼ばれる酒造りの専門家が、蔵に住み込みで酒造りの一切を取り仕切る。蔵の一面には杜氏さんやその下で働く蔵人さんたちの宿泊場所がある。川人さんには、もの心つく前からそこに入りし、杜氏さんや蔵人さんたちと遊んでもらった楽しい記憶が鮮明に焼き付いている。

「あのころは蔵人さんもたくさんいて活気があった。今では杜氏さん1人と蔵人3人、従業員4人だけで仕込みをしています。」

やはり日本酒離れの影響は大きいらしい。最盛期には機械化も進め「大型仕込み」をしていたが、川人さんの英断で、仕込み規模を縮小した。

「今はコンピュータで制御できるので杜氏がいなくてもお酒はできる。でも、やはり杜氏の長年の勘と経験はコンピュータにかなわないと思うのです。小さな蔵で手造りにこだわってお酒を造りつづけたい。そして、20代~30代の若い人に好まれる、新しいお酒を作りたい。」と意気込みを燃やす。

川鶴には昔の蔵をそのまま生かした資料館や小ホール、ギャラリーがある。資料館でお酒をいただきながら、川

人さんのお父様で相談役の川人洋造さんにもお話をお聞きした。洋造さんは酒道の研究者としても有名。「酒」という名の由来は災いをさげ、さかえたい、という思いであること、男性、女性のお猪口の持ち方など、お酒についてのトリビアな話題で盛り上がった。

「日本酒は、同じ米、水、麴を使っても仕込みごとに微妙に味が違う。この微妙な違いを楽しめるのは日本人の特性です。お酒を楽しめると人生がもっと楽しく豊かになりますよ。」

久々に骨太で素敵な日本男児を見た感じ。ワイン党だった私も今日から日本酒党に鞍替え!



左から川人洋造さん、裕一郎さん、営業推進部長の芳地さん

■金刀比羅宮の御神酒「金陵」

<http://www.nishino-kinryo.co.jp/>

再び車をひた走らせ、次に向かったのは、讃岐の名所金毘羅さん。その参道に「金陵」の酒蔵がある。といっても、現在はそのほとんどが資料館「金陵の郷」として改修され、メインの工場は多度津にある。金陵は、1789年の創業で、江戸時代から「こんびら酒」と呼ばれ金刀比羅宮の御神酒として地元の人々や日本中から集まる金毘羅参りの人たちに愛飲され続けている。著名な書家の手による大きな木の看板が210余年の歴史を物語る。

「金陵の郷」で、村長として広報や来館者の案内をされている松原浩二郎さんにお話を伺った。

「お酒というものは、地元の食べ物に合った味に造られています。讃岐のお酒は、瀬戸内のおだやかな気候、素朴な海の幸、山の幸に合った飲み飽きしない懐の深いお酒です。金陵の酒は、全国の鑑評会で4年連続で金賞を受賞していますが、手作りでいいお酒を作っている、香川県自体の知名度が低く、なかなか全国的にアピールできないのが残念です」

金毘羅さんの御神域の象頭山から湧き出る銘水、また多度津葛原八幡神社の9百年を越える歴史ある御神水と、地元のお米「オオセト」。地元の原料にこだわって、手作業で丁寧に造られる金陵のお酒。

「こんなに手元かけて造ってるのを見たら、お酒を買うときも、拝んで分けていただく、という気持ちでないとあかんあ」と酒販店を営むS先輩。そのとおりです。ありがたください!



資料館の村長、松原さんにきき酒の仕方を教わる

■時代に迎合せず時代の波間を生きる「綾菊」

<http://setoumi.cool.ne.jp/ayakiku/>

最後に訪れたのは創業1790年の綾菊。10代目という泉

特集 世代を超えて共有できる讃岐の思い出

谷武信さんは、高高出身。京都大学の農学部で学業を修め、家業を継ぐために香川に帰ってきた。

綾菊は全国鑑評会13年連続で金賞を受賞。綾菊が抱える杜氏の国重弘明氏は現代の名工(労働大臣表彰)を受賞されている。綾菊では徹底的に地元産の原料にこだわり、主原料のお米の品種改良にも積極的だ。

「酒造りには不適といわれていた讃岐の米を長年かけて改良したのが「オオセト」。今、それよりも更にもっといいものを作ろうと17年間かけて研究し、ようやく日の目を見ようとしています。」

まだ名称も決まっていないこのお米。このお米でできた酒を口にすることができる日ももう間近だ。伝統もある一方で、このような革新にも熱心な綾菊。しかし、それを積極的にアピールすることはない。

「飲む人にとってはうまいかうまくないかですべて。造り手のこだわりなど、どうでもいいことですから。」

ところで、綾菊にとっても日本酒離れは深刻なはず。お酒が今以上に売れなくなったらどうするのだろうか。

「私は、酒を売っているというより、お酒がとりもつ豊かな時間を売っている、と思っている。だから、お酒が売れないというのなら、焼酎だって造るし、リキュールも造る。時代はどんどん変わっていきます。流行に迎合するつもりはありませんが、時代の変化にはついていかなければ。」

蔵元の長というよりは、どこか現代的なビジネスマンを思わせる泉谷氏。現代的な経営手腕が、古くからの伝統を守る。今はそういう時代なのだろう。讃岐の酒造りの伝統の火をぜひ灯し続けて欲しい。



右から2番目が泉谷さん

■旅の終わり

各蔵で、数種のお酒を試飲させていただいたが、それぞれ違う表情を持ち、同じ原料で造ってもこれほど味が違うのか、と驚き。日本酒の奥深さを実感した。どの蔵元でも親切にご案内をいただいて去りがたく、ついつい予定の時間が伸び伸びに。昼食はS先輩率いるうどん屋めぐりができるかと思ったがその時間もなし。帰りの飛行機の搭乗開始20分前に空港に到着。子どもたちにお土産も買わねば、と焦り気味の佐藤と私。が、菊池は「帰る前にうどんを食べなくっちゃ」と余裕。間に合うのかと不安げに問う私に「1分で食べられるから大丈夫」と豪語。実際、搭乗時間ギリギリに、うどんを平らげ、しかもしっかりお土産も買って登場した菊池にはびっくり。恐るべし。酒豪のほの三好、池内は、風格のある蔵元さんたちを前に遠慮したのか、荒れることなく至極まとも。しかし、市場に出回ることのない秘蔵の古酒をひそかに注文する三好と池内の姿は私は見た。やっぱそうこなくっちゃ。We love 日本酒、We love 讃岐!! 総会で、川鶴、金陵、綾菊のお酒を試飲できます! 乞うご期待!

(昭和56年卒 石井栄子)



ぽっこぽっこぽっこぽっこ～のメロディが懐かしい! ロバのパンの思い出。

ろばのおじさん チンカラリン～
♪チンカラリンロン～やって来る～

だれでも一度は聞いたことのあるメロディーに乗ってやってくるロバのパン屋。香川県だけの名物かと思っていたら、なんと本拠地は京都。1927年に、初代の桑原貞吉さんが京都にてまんじゅうと蒸しパン屋をはじめたのが最初。現在では、大阪、三重、山口、四国、九州に9つのチェーン店があるそうです。讃岐の思い出、というよりは、西ニッポン一帯の人々の、共通の思い出となっているロバのパンについて、56卒菊池智津がレポート!

「子供の頃の懐かしいおやつ」と言うときすぐに思い浮かぶのが、独特のテーマソングと共に本物のロバが売りに来ていた「ロバのパン」(注:ロバが売りに来たのは1964年まで。以後、自転車や軽トラックがこれに代わります。年がバレますね)。

昨年末、この「ロバのパン」を「東京玉翠会の総会で出そうよ」ということになりました。いつの間にか担当者にされてしまったSは、HPで京都のビタミンパン連鎖店本部のページを探し当て、早速交渉開始。が、やり手のSを以てしても交渉は難航。どうやら先方は大量の「ロバのパン」の東京進出は初めてのことで戸惑っている様子。出張のついでにご主人をお願いして来ると言うSに、何だか面白そうと同行を決意しました。

2月の日曜日、京都駅で待ち合わせていざ工場へ。呼び鈴を押しても返答のない間口二間ほどの工場の前で待つこと約十分、このまま会えないかと心配していたらおんぴりと自転車で奥さんが買い物から戻り、Sも私もほっとしました。昔ながらの擦りガラスの戸を開けて中に入ると広い土間にあの懐かしいショウケースを載せたトラックが。ガラスの引き戸の中には数個の蒸しパン。下の小引き出しから小銭を出してお金をやり取りすると、気分は昭和40年頃にタイムスリップです。私は思わずそこにあった全種類の蒸しパンを購入。Sはその間にもしっかり総会のコンセプトなどの資料を手に、見るからに人の良さそうなご主人を説得していました。土間の奥はご主人と奥さんが

切り盛りする工場で、蒸籠なども並べられ如何にも家族経営という感じが漂います。私のお供で付いて来た食いしん坊の次男はみたらし団子を頂いて満足気。1時間ほどの後、無事交渉が成立し、安堵の帰宅となりました。

持ち帰った蒸しパンの幾つかは冷凍して蒸し直し、パート会議の際にメンバーで試食。「そうそう、こんな味だった。」「もっと大きかった気がする。」等、子供の頃に返って話が弾みました。

たかが、「ロバのパン」されど、「ロバのパン」。皆様に懐かしんでいただきたいという一心で、京都まで足を運んだSを始めとするメンバーの気持ちも一緒にご賞味ください。

現在香川では、7年前の販売者を最後に「ロバのパン」を販売する方がいらっしゃらず、徳島から売りに来ているそうです。私は減多に帰省しないせいか、成人してからまだ一度も「ロバのパン」販売の現場に行き合っておりません。今後、帰省するときの楽しみの一つになりそうです。
(昭和56年卒 菊池智津)

写真提供:
株式会社ビタミンパン
連鎖店本部



讃岐の名産地探訪

100年以上の歴史～ヤマロク醤油の蔵を訪ねて

醤油は、讃岐の名産品のひとつ。中でも小豆島は千葉県・野田、兵庫県・竜野につく全国有数の名産地。部活の合宿や遠足で小豆島を訪れた時、町中にぶーんと漂う醤油の匂いを胸いっぱい吸ったことを懐かしく思い出します。昨年夏、家族で帰省した折に、思い立って「どっちの料理ショー」でも紹介された醤油「ヤマロク」の蔵に立ち寄りしました。その時の様子をご紹介します。



息子たちも巨大な杉樽に感動!

小豆島の醤油・佃煮工場が軒を連ねる「醬の郷」(ひしおのさと)で、100年以上前から醤油を造り続けている「ヤマロク」。予約もせず突然訪問したにもかかわらず若主人の山本康夫さんがにこやかに出迎えてくださり気安く蔵の中を案内してくださいました。この蔵は、明治初期にできたもので、有形文化財にも登録されているそうです。

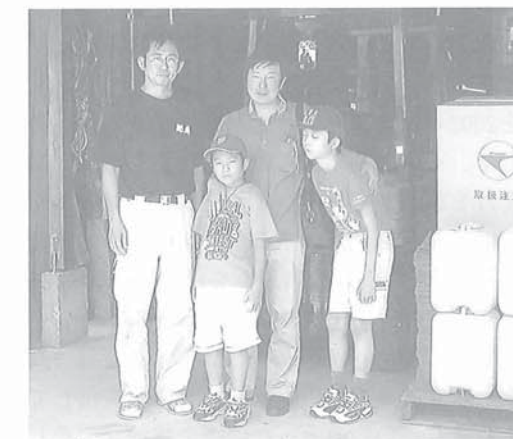
薄暗い蔵の中は、冷やりとしていましたが思ったほど湿った感じはありません。ただ、壁一面に付着した菌類が歴史を物語っています(この菌類は、酵母菌と乳酸菌とのこと)。蔵の中を占領する背丈以上もある高く大きな杉樽数個それぞれの表面にも菌類がビッシリ付着、これが醤油の味の決め手になるそうです。この杉樽を締める竹縄を編む職人も今ではいなくなり、この杉樽自体も作れなくなったとのこと。伝統的な職人技はこんなところでも失われつつあるのだと思うと残念です。一通りの説明を受けた後、梯子を上って杉樽の開口部も見せて貰いました。「落ちたことはあるの?」と突然次男が質問。「実は一度

あります。」そのときは足から落ちたので何とか麴をかき混ぜる棒2本を竹馬のようにして自力で這い上がったそうですが、頭から落ちていたら命に関わったであろうとのこと。気軽に動いているようですが案外命懸けなのだちょっとびっくりしました。

現在、ヤマロクで手掛けている醤油は、再仕込みで四年の年月をかけて造る「鶴醬」と、丹波の大粒の黒大豆で作る「菊醬」の2種類。「菊醬」の仕込み途中の黒大豆を食べさせて頂きましたが、そのままでも十分美味!

地元の良質の塩と発達した海上交通で運ばれた大豆・小麦を原料に、温暖な瀬戸内気候、これに昔々からの頑固な職人技が加わって生まれた讃岐の誇る小豆島の醤油、是非一度お試しください。

(昭和56年卒 菊池智津)



若主人の山本康夫さん(左)と、夫、息子たち

讃岐の味といたらこれ! 餛飩雑煮

讃岐に生まれたからには、お正月の雑煮は「あんもち雑煮」と決まっている！そう思っている私ですが、他県の人からは「うげっ、味噌にあんこ？」「甘くて気持ち悪そう」と言われると、少し自信をなくしてしまいます。そんな時は、「京都の白味噌丸餅雑煮の流れをくむ、雅な雑煮なんやでー！」と反論しておきます。

三木町の私の実家は兼業農家をやっており、子どもの頃から12月29日に炊いたあんこを丸めるのは私の仕事で、30日は家族総出で庭先で餅つき。石臼と杵で蒸し上げた餅米をつき、熱々のやわらかな餅にあんこを入れ、みんなで片栗粉だらけになりながら、お正月のためのお餅を丸めたものでした。それがここ二十年で石臼たちは納屋のどこかに押しやられてしまい、今ではすっかり餅つき器のお世話になっています。

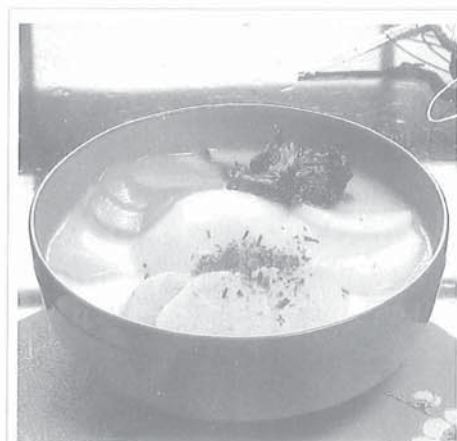
東京に出てきて十数年、今でも毎年お正月休みには三木町の実家に帰る私にとっては、何も珍しくない「あんもち雑煮」ですが、結婚して東京に住み、帰る田舎もなく、「あんもち雑煮」を口にすることがなくなってしまった方、または伴侶の好みで角餅すまし雑煮しか食べられない…等々、このような郷土の雑煮でお正月を祝うことが叶わないという恵まれない人を助けるために、高高神田会は、NPO(?)「白味噌・あんころ丸餅雑煮会」を2002年にスタートさせたのであります。そして、その「あんもち雑煮」を食しつつ、旧正月を讃岐弁でワイワイと祝う行事は、今年で既に4度を数え、すっかり年中行事の仲間入りとなりました。(詳しい活動報告は、高高神田会紹介ページ、またはホームページをご覧ください。)会場は、37年卒の渋谷『高松』の女将さんのご厚意で、お店を提供してくださり、いいのに入った飯蛸や醤油豆、そしてうどんまで振る舞っていただき、毎年100

個用意したあん餅も、すっかり無くなってしまふのであります。

それで何故私がこんなコラムを書いているかと疑問に思った方もいらっしゃるでしょう。それはたまたま「白味噌・あんころ丸餅雑煮会」の発足に立ち会ったからであり、東京であん餅を入手するのは困難では？という問題に、つい口が滑って「うちから送ってもらいたいのですよ〜」と安請け合いです、親不孝な娘のせいで田舎の両親は毎年あん餅100個を作って送るはめに…いや、材料調達係としてのお役をいただいているからであります。

讃岐の人もそうでない人も、来年はいっぺん食べにおいでませ。雑煮談義に花を咲かせましょう！

(平成3年卒 佐治珠実)



讃岐独特のあん餅雑煮 高松のりかポイント

帰省の折には是非、おいでませ! 懐かしのあの味 新しい味 讃岐のB級グルメガイド

	食べ物	店舗名	備考
1	ほんまの田舎の田舎そば	竹屋敷 東かがわ市多和の山の中	何が田舎そばかわからない今の世でほんとに田舎でやっているそば屋。はるばるここまで来たならばもはや誰もまずいと言えない。
2	漁師が買いに来る干しえびと煮干	木村水産他 さぬき市津田漁港	料理用の煮干や干しえびを皮をむいておやつがわりに食べる。「私らの子供のころは…」のフレーズが思わず出るでしょ。
3	養殖場の牡蠣焼き	かまくら ことでん志度線原駅おりる	鉄板の上で焼く牡蠣の食べ放題。焼け具合を確かめるのもセルフなので、ヨソ見しながら食べるとあとがたいへんになる場合も。
4	ぎょうせんあめ	三原船店 三木町の藪の中	麦芽でつくった水飴。妊婦の食べ物として町内では有名。今は美容食として売り出し。甘いものダイエットか?
5	むつごすぎのお好み焼き	ふみや 高松市五町・西の丸	椅子に座っただけでお尻が油まみれになるといふギトギト感は今も健在。女性はハイヒールでの入店も危ないぞ。
6	ハヤシライスとオムライス	たけだ 高松市扇町商店街	ハヤシライスとオムライスだけで長年にわたって営業。扇町の住民と外回りの営業マンの間だけで伝説的なレストラン。
7	うどんやのちらし寿司	久保田うどん 高松市扇町十字路	二口三口分しかなくて150円もするちらし寿司が午前中に売り切れるうどんや。うどん食べんとちらしだけで帰ると怒られる。
8	学生の店播メニュー かわバター丼	武内食堂 高松市錦町NHK横	女性客がいると心なしか味が普段よりよくなるという無口な親父がつくる名物丼。でも普通の女性なら入るのに勇気を要する。多分。
9	鳥の生レバー刺し	山田お好み焼き店 高松市香西寺入り口	かし屋さんのお好み焼き。鶏肉のお好み焼きもすることながら、平日の昼間からビール飲んでのお客はほぼ全員がこれを頼む。
10	昔ながらのばら寿司	谷岡食堂 塩江町役場の奥	大衆食堂ながらほぼ全員のお客がばら寿司中華そばを注文するという。品切れても10分くらいでつくってしまうおばあさんが名物。
11	絶対怪しいなり寿司	表の看板は三島薬局 坂出市林田町白峰上り口	油揚げ一枚使うバカでかいなりも怪しいがお店もお客もそれ以上に怪しい。自分くの台所でお客に娘の宿題みさせながら食べさせる。
12	やそばのどころてん	清水屋 坂出市八十場駅上がる	お通路さんの立ち寄り納涼処。冷たい湧き水で顔を洗って食べればヒヤッとして最高。冬場に何を食べるかが課題。
13	天ぶらラーメン	一流食堂 丸亀市浜町ガード下	ラーメンに海老天がのっただけで値段が倍になるのが難点。素ラーメンの値段を見ないように食べれば味的には納得。
14	骨付き鳥	一鶴(本店) 丸亀市丸亀駅前	横浜にも出店。もはやメジャーな香川発の味。堅い鳥の足揚げただけで980円とれる伝説の飲食店に。
15	とっさかまんじゅう	元祖鳥飯頭とその隣 三野町鳥飯峠	西の元祖と東の本家が隣あわせで営業。ブランドの西、ボリュームの東といったところ。両方買ってもあわせて千円也。
16	マグロツケ丼	若だんな 詫間町大通り	どう見ても元お好み焼き屋でやっているマグロ丼専門店。味は地元漁協さんのお墨付き。だけど瀬戸内でマグロはとれんぞ。
17	仁尾のたこ判	店の看板は小前美容室 仁尾町の海水浴場	全国的に有名。80円でもう食べれん…と、MXCを凌ぐ厚版お好み焼き。意地で値上げしないというおばちゃん健在なうちに急げ。
18	うどんや専用の揚げ物	表札は藤原 琴平町の住宅街	県内有名うどん店のきなみ御用達の揚げ物屋。揚げたて食べれるのはここだけ。地図を描いても絶対わからん秘密クラブのようなお店。
19	綿豆腐からつくった油揚げ	道の駅 ことなみ まんのう町琴南	ひと昔前までは幻の食べ物だったのが町おこしで手軽に入手できるようになった成功例。それでも高松から1時間かかるんだが…。
20	うどんアイス(ソフトクリーム)	うどん会館 綾南町滝宮道の駅内	煮干をいれたり乾麺をそのまま入れたり、試行錯誤と何も知らずに食べたお客の悲鳴の繰り返し。末、最近ようやく「食べ物」へと成長。
21	サービスのつもの(食べ放題)	大喜うどん 観音寺市高瀬高架の下	うどんよりもサービスで食べ放題の漬物のうまいこと有名。いっそのこと漬物屋にしてうどんをサービスでつけた方が…。

うまげなの〜香川 <http://www.umagenet.net/>の「うちくの町の買い食い広場」にもっと詳しい情報が!! (昭和54年卒 佐藤哲也)

第77回選抜高校野球大会出場記念企画

「熱闘！ 高高野球。71年ぶりの甲子園で見た夢」

～応援レポート～

一塁側：高高応援団

2005年春、我が高高野球部が、実に71年ぶりに甲子園のグラウンドにその姿を見せた。春のセンバツ大会は72年ぶり、夏の甲子園大会からは71年ぶりという、出場校の中でもダントツの最長ブランクでの快挙である。

高中時代からの伝統のユニフォームを付けた選手たち。

足下にくっきりと浮かぶ出場回数を示すストッキングのラインは7本から8本へ。

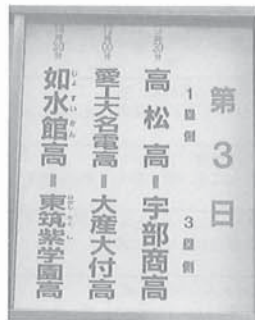
数々の試練を乗り越え果たした甲子園での第一戦は、また新しい歴史を作っていく。ということで、あの感動をここに再現。



東京出発 丸ビル前から、東京玉翠会応援バスツアー一行様出発。「甲子園に向けて いざ出陣！」(景気づけに旗を振る 久保先輩 (S27) に驚いて、ガードマンが出てくる一幕も)



甲子園到着 10時間近くバスに揺られ、やっと甲子園の駐車場に到着。周りは、コトデンバスだらけ。高松からのメンバーと合流し、讃岐弁が飛び交う中、みんな急ぎ足で甲子園球場へ



うわぁ～ どうとう甲子園に来たで。TVで見たまんまや。スゴいねえ。どの出場校も強そうやなあ。でも、がんばって応援するゾ！



伝統の校旗と
激励の横断幕



試合開始 攻撃時は、大声で声援を送り、守備時は、食い入るように戦況を見守る。「我々がついとるから、大丈夫やで！」

校歌斉唱 アルプススタンド全員が揃って、懐かしの校歌を口ずさむ。歌いながら、だんだん歌詞を思い出してきた。「世紀新たな陽に映えて♪」なんか感動して、涙が出そうになっちゃった。「勝たなくても」必ず校歌を歌えるのはいいねえ



何とか、試合になつとる。ひょっとしたら、勝てるかも!?

パパ・ママ達は、すっごく夢中になってるけど、私たちは、そろそろ飽きちゃったよぉ～



フレ！フレ！
たーかーこー！
フレ！フレ！高高！
フレ！フレ！高高！
黄色いメガホンが一齐に揺れ、一塁側アルプス席は、さしずめ《風に吹かれる菜の花畑》この応援風景が評価されて、「最優秀応援賞」をもらえたのかな？



試合終了 結果は、2対6で惜敗。「よう、がんばった！惜しかった、惜しかった。」「私たちが甲子園に連れて来てくれてほんまにありがとう！ 夏も期待してるヨ！」(そんなプレッシャーかけて…)



試合後 高高関係者が球場の売店にドーッと殺到。記念グッズが次々と売れ、瞬間に完売！！「申し訳ありません。高松高校のグッズは、すべて売り切れてしまいました！」「うそ～、もうないの？」この会話を耳にして、「よし、追加生産してもらって、総会で甲子園グッズを販売しよう！」と決意

これまでTVでしか見たことのない【憧れの甲子園アルプススタンド】は、私たちに感動を与えてくれる素晴らしい場所でした。老いも若きもみんな団結して、一生懸命応援する様子は、まさに「究極の同窓会」でした。みんなの長年の夢をかなえてくれて、本当にどうもありがとう!! <応援レポート/昭和56年卒 佐藤みどり>



春のセンバツに出場して

戦う高松高校野球部の現役リーダーは彼ら！ センバツ出場チームを率いた秦監督、渡辺部長、そして池内キャプテンに、センバツを戦った感想と夏の甲子園に向けた抱負を聞く。



秦 敏博（はた・としひろ）監督
昭和55年卒。高高時代は主将（一番・遊撃）で3年春の県大会準優勝。広島大では大学選手権、神宮大会に各1回出場。96年4月に高高野球部監督に就任。99年秋には四国大会4強でセンバツ補欠校に選出。社会科教諭

「試合までの1ヶ月半。選手たちはすばらしい集中力をみせてくれた」（秦監督）

野球の魅力は何といってもチームプレー。自分の力だけではどうにもならない強い相手でも、チームで一丸となれば倒すことができます。また、野球は他の競技と違って、試合の中に「間」があるスポーツです。そこに、駆け引きなど知的な要素が入ってきて、必ずしも実力がそのまま出ないという奥の深さがあります。勝っていても一球のミスでサヨナラ負けすることもある。高校野球では特にそうだといえます。

甲子園出場が決まった時は、まさに「夢心地」でした。しばらくは、甲子園でどう戦うか、具体

的に想像できませんでしたが、大阪に乗り込んでから実感が湧いてきました。決まってから1ヶ月半の選手たちの集中力は見事で、うれしかったです。バットスイングのスピードも上がり、チーム力がぐんぐん向上しました。

「文武両道」といわれますが、自分の意識をコントロールして、授業では学業に集中する、グラウンドでは野球に集中する、その切り替えが第一だと思います。野球にも攻撃と守備があります。たとえ、守備にミスがあっても、そのショックをひきずることなく攻撃に転じることが大事です。伝統の重みをプレッシャーに感じることはありません。OBがよく練習場に来て指導してくれるので、よい意味での歴史は選手たちも感じていると思います。

これから夏の大会に向けて、基本的にはこれまでと同じ戦い方をしていきます。守備力、打撃力は十分とはいえず、けっしてすべてがそろったチームではありません。ですから、戦略を駆使して、接戦に持ち込む作戦をとります。大量失点を許さず、「相手のしっぽが見える」ように粘り強く戦って、勝ちをおさめたい。攻撃では機動的なバントや走塁でゆさぶり、相手のエラーを見逃さずに得点につなげる。ピッチングは配球やコーナーワークを工夫して、たとえ三塁まで進まれても決してホームを踏ませないようにする。一戦一戦に集中して勝ちを重ねて、再び甲子園をめざします。

「甲子園効果で今年は入部者増。チームの将来も楽しみ」（渡辺部長）

昨年春に野球部長に就任して、1年目で甲子園に出場するという巡り合わせになり、自分は非常にラッキーだと思います。21世紀枠での出場が決まるまでには、さまざまな手続きがあり、何事も手探り状態で苦心しました。また、決まってから



渡辺浩一郎（わたなべ・こういちろう）部長
昭和56年卒。高高時代は一般生徒として野球部を応援。2004年より野球部部長。数学教諭

は、かつてない応援と取材の嵐でてんでこまいでした。

高松高校は21世紀枠候補校の中で、野球の戦績以外の面では一切負けていませんでした。高高野球部の卒業生に限らず、高松高校の卒業生は数多く難関大などへも進学し、各界で活躍されています。そうした総合的な評価が今回の21世紀枠での甲子園出場につながりました。

戦力面では、エース田窪の成長が大きいです。田窪投手は昨年9月に香川県大会の初戦で初めて完投し、シンカーの配球に自信を持って、その後メキメキとうまくなりました。一方、打撃力では打てるチームではないので、バントの構えから重心を移動し1回引いてから打つ「バスター打法」をとっています。

甲子園では全国の実力レベルの高さを実感しました。他校の選手とは体格から明らかな差がありました。しかし、選手にとってはそのことが逆に開き直るいい材料になったようです。甲子園では「当たって砕ける」という気構えで、試合で緊張することはなかったと思います。

ただ、甲子園から帰ってからは疲れが出てしまい、4月から5月中旬のチーム状況は最悪でした。しかし、故障者の復帰などもあり調子は上向きになっています。気持ちをリセットして、夏に向けて頑張りたいと思います。甲子園出場のおかげもあって今年は1年生が14人入部し、中には有望選手もいますので、チームの将来が楽しみです。

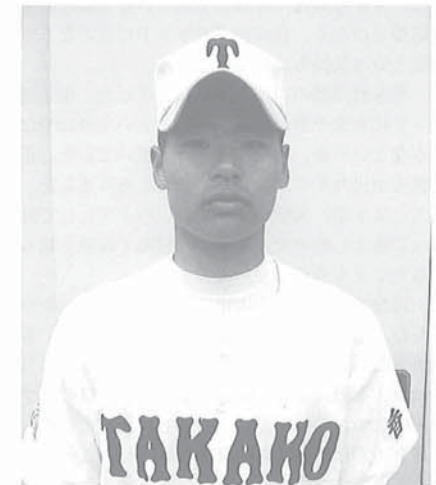
最後になりましたが、今春の選抜高校野球大会

出場に際し、東京玉翠会会員の皆様をはじめ、卒業生の皆様には物心両面でご支援をいただき、野球部を代表しましてここに感謝いたします。どうもありがとうございました。春夏連続、あるいは2年連続選抜での甲子園出場を目指し、野球部は一丸となって日々精進しております。今後ともご指導ご声援よろしくお願いたします。

「甲子園の楽しさと難しさ。後輩には練習態度で伝えていきたい」（池内主将）

甲子園での公式練習は30分しかなかったのですが、とにかく大きい球場だな、というのが第一印象でした。芝が生き生きしていてグラウンド状態がよいのに感動しました。試合では巨大なスタンドが盛り上がりが見え、超満員の観客席からの応援はとても力になりました。絶対にもう一度甲子園に来たいという思いを強くもちました。

実際に戦って肌で感じた甲子園の楽しさは、想像以上に素晴らしいものでした。同時に、甲子園で一勝することの難しさを痛感しました。この経験を1、2年生にも、言葉ではなく練習態度などで伝えていければと思います。夏に向けて実力ではかなわなかったチームにも一戦一戦ぶつつかって勝ち取り、自力で甲子園に行きたいです。自分の次の目標は「甲子園で一勝」することです。



池内 司（いけうち・つかさ）主将
1987年生まれ。綾南中出身。遊撃手。好きな言葉は「常在戦場」

（インタビュー／昭和56年卒 森幸茂）

2005年春。高松高校が71年の沈黙を破り、甲子園の土を再び踏むことができた、その理由は？

センバツ出場は何も「降ってわいた話」ではない。21世紀枠であったとしても、選ばれるチームになった背景や理由がそこにはちゃんとあるはずだ。指導者の存在？ 選手の野球への意識の持ち方？ それとも…？ この春闘った高高チームを直接知る、在京の野球部OBに集まってもらい、その理由を解き明かすべく語ってもらった。なぜならそれを知ることが、再びの甲子園を引き寄せるとの思いがあるからだ。

司会：まず、みなさんが甲子園で観戦された感想をお聞かせください。

真鍋：私は高高野球部の甲子園練習にノッカーとしてグラウンドに入ることができました。自分にとって甲子園球場に来ることは諦めていた夢で、まさかこんなチャンスがいただけるとは思っていませんでした。ありがたかったです。グラウンドから見ると観客席がすごく大きくて圧倒されました。何より、アルプス席に5000から6000人という自分たちを応援する人がいて、大歓声をかけてくれるという経験は、人生の中でも滅多にないことでしょう。選手でなくてもそれが一番感動しましたね。

池上：私はアルプス席には入らないで、内野席のフェンス横あたりで同期と一緒に応援しました。「これ、本当なのか」という感じが最初持ちました。でも、正直言うと、あっけなく終わってしまった。あっという間に時間が過ぎてしまったという感じがしました。秦監督とは同期であり高校時代からの付き合いですから、思いはいろいろとあり、その感慨深さは一言では言えません。

あと、自分も高校で野球部を見ている立場なので、やはり応援ではなく、自分がグラウンドに立たなくてはダメだなという気持ちにもなりました。

太田：私も野球部の同期と一緒にいました。甲子園のグラウンドに高高的野球部選手がいるというのはやはり夢のようなというか、言葉にできない思いでした。正直言えば自分が出たかったという気持ちもありました。今は離れていますが、大学卒業後もアンパイアとして野球に関わってきましたので、そういう視線で後輩を見ることができたこともうれしかったです。

堀本：自分の頃ももちろん甲子園を夢見て野球をやっていました。どこかに消え去ってしまった遠い昔の夢が、後輩たちがやってくれたことで、急にボンと目の前に現れた、不思議な感激がありました。私はアルプス席の真ん中にいたのですが、応援はとにかくすごかったです。高高的OBの人たちは高高を卒業したことにとっても誇りをもって、それであればとまどまった、連帯感のある応援になったのでしょうか。

升岡：私は大学野球の練習があり、甲子園には行けませんでした。高高的試合はビデオにとって見ました。うれしいというよりはうらやましいという感じでした。



チームを甲子園に率いた秦監督のカルスマ

司会：皆さんの高高野球部時代を振り返りつつお聞きしたいのですが、チームを率いた秦監督はどんな方ですか？

池上：21世紀枠で高高が候補に選ばれるにあたっては、香川県高野連の細川理事長も非常に頑張ってくれたと聞いています。実は、秦監督と細川理事長とは同期ですが、今回出場できたのは、細川、秦の2人の熱意のためものと思います。

秦は高校時代から、熱い闘志をもって、他校でも「高高的秦の闘志を見習え」と言っていたほどです。練習でもみんなを引っ張っていくし、ムードをつくっていく。プレーだけでなく言葉にも仕事にも闘志が現れている。

太田：（秦さんは）1年先輩でしたが、怖いイメージは確かにあります。猛将タイプというか、率先垂範する人で、妥協がないんですね。実際に厳しかったですし、自分にも厳しい。そういうふうには見えませんでした。堀本：2年先輩なので（一緒にプレーした）時間は短かったのですが、印象が強烈だったので鮮明に覚えています。先輩方が言われた通り、熱血漢で、率先垂範で。厳しい人ではありますが、基本的に優しい人だと思います。

池上：そう。ユーモアがあり、いくら厳しくやっても、人から嫌われるタイプでは決してない。

司会：真鍋さんはそんな秦さんが、今度は監督として高高野球部にやって来た年に、部員だったわけですね。いかがでしたか？

真鍋：秦監督は、高松高校に来る前には高松北高校にいらして、高高に赴任が決まった時はすごくショックだったらしいです。北高で甲子園に行こうと心に決めていたからです。北高時代から「鬼の監督」と聞いていたのですが、本当に怖かったです。人間としてカリスマ性があり、高校生が「ついていこう」と思うタイプだと思います。

自分は野球をやってきて、これまでいろいろな監督さんと関わってきましたが、その中でも秦監督は「自分で試合を操れる」と考えている監督だと思います。ランナーが出たときなど自分で仕掛けていきますし、細かい指示を出してゲームを動かそうと戦略的にやっています。

今の選手たちも、非常に監督を信頼していますね。監督は今回の甲子園のチームについて、「ここまで自分の言うことを信じて、実行したチームはない」とおっしゃっていました。だから彼等は甲子園に行けたのだと思います。

升岡：（秦監督は昔に比べたら）ずいぶん丸くなったと聞きました。監督の存在は大きくて、試合中でも安心感があります。怖いですが、惹かれる監督です。自分は今も野球をやっていますが、リーグ戦の前には必ずお電話をいただきます。「どうだ調子は？ がんばれよ」と。すごくありがたいです。

大学野球をやるなら東大へ!?

司会：みなさん大学でも野球を続けられた方たちばかりですが、最初からそう考えて大学を選ばれたのですか？

池上：高校3年で引退した時は、もうやらないと思っていたんですが、だんだんやろうかな、という気になって（笑）。

太田：ほくも大学進学時には全然やろうと思っていませんでした。筑波大は、試験の「実技」の中に野球がありそれを選びはしましたが、合格通知の中に「野球部の合宿に來い」という指示が入っていました。まだ大学に入るとも言っていないのに（笑）。入学を取り消されては困るので、参加しました。

真鍋：ほくは野球をしようと思って、東大を選びました。大学で野球をするならメインである東京六大学でやりたい。しかし早慶法明…というレギュラーになるのに何年かかるか分からない。でも東大なら神宮でプレーする



池上 茂(昭和55年卒—東大硬式野球部—国立高校野球部部長)
1) 12歳 2) サード、セカンド 3) 昨年夏の国立—法政の一戦(高校野球選手権西東京大会) 4) 長島茂雄、原辰徳、松井秀喜 5) 麻雀 6) 英語 7) バトミントン、サッカー 8) 「一戦必勝」 9) 甲子園出場



太田 理(昭和56年卒—筑波大硬式野球部)

1) 小2 2) 高2夏まで投手、以降大学卒業まで捕手
3) 高校最後のゲーム&大学最後のゲーム 4) 古田敦也 5) 多数 6) 体育 7) 水泳 8) 「燃える心とたゆまぬ努力」 9) やせること 10) 野球にたずさわる仕事がいつかできればと思います

チャンスがあると思って、東大を受けました。身近に高高から東大へ進み野球を続けている人がいたので、前から意識もしていました。

堀本：私もまったく同じですね。野球を続けたくて東大を選びましたし、野球やるために大学へ行った感じです。本当に野球しかやっていなかった。毎日、12時くらいから下級生がグラウンド整備を始めて、1時から5時半くらいまで練習して、その後は居残り練習です。ハードでした。

池上：最初入部すると、「語学と体育の授業だけは出てもいいよ」と言われ、ああ、そんなものなのかと（笑）。

升岡：今はそんなに（練習は）厳しくはないですけど、みんな授業には出ませんね（笑）。

太田：私だけが首都大学リーグでみなさんは東京六大学ですが、高校野球と大学以降の野球の違いについては、どんな印象を持たれましたか？ 高高的野球と東大の野球は近い気もするけれど、どうでしょうか？

池上：高校の野球と大学の野球で、ほくが一番違うと思ったのは、チームワークに対する考え方です。高校野球は「チームで一丸となって、盛り上がり行こう」という感じだけど、大学では「個人個人がきちり各自の役割を果たすことがチームの力になる」という考えです。

堀本：自分が東大野球部にいた時代は、六大学のレベルがとても高かったですよ。甲子園出場校と比べても、高校野球とはすごいレベルの差を感じました。

司会：ところで、在学中の後輩をスカウトのような感じで自分の大学野球部に誘ったりするんですか？

真鍋：実は自分はかなり誘った方ですね。松家が高高的にいた時、東大に「松家をとろうプロジェクト」があって（笑）、山口での合宿のオフの際、監督を連れて高松に行き、松家に「東大は待っている」とメッセージを伝えました。その後、監督は電話でフォローしていました。あのクラスの投手は、なかなか東大からは出てこない素材でしたし、勉強もできると聞いたので、絶対に東大に来て欲しいと思いました。



堀本勝敏 (昭和57年卒—東大硬式野球部)

1) 4歳 2) 投手 3) 高校3年夏の最後の試合
4) 落合博満 5) 読書、ゴルフ 6) 物理 7) ゴルフ、マラソン、K1... 8) 「波にのまれてなお沈まず」 9) 会社のバジェット達成...でしょうか 10) 子供とスポーツで張り合いたい

「文武両道」のやり方

司会：ところで皆さん、野球と勉強とどうやって両立させていたのでしょうか。厳しい野球部の練習をやりながら、試験や受験勉強で大変だったと思いますよ。

池上：よく「文武両道」と言うけれど、実際には両立とか両立という感覚は全然ないです。両立というより「切り替え」という言葉の方が的を射ている。今指導している学校も進学校で、「文武両道」が謳い文句なんだけれど、全然そういう感じじゃない。部活をやっている間は部活中心でやって、終わったら切り替えて...。1つのことを頑張っているって、集中力、体力がついて、多少の遅れを取り戻す力が養われるのかな。

堀本：私の場合「文武両道」とはまったく反対で、とある人から高校3年間は勉強すると言われました。どっちつかずになるから3年間は野球に集中しろ、その後浪人して勉強しろと。私はその通りにしました(笑)。切り替えができる人とできない人がいると思う。体力があるかないかにもよるでしょう。自分は練習の後にはくたくたになって、勉強どころじゃなかった。

真鍋：ほくも堀本さんとまったく同じですね。どっちかしかできないので。最初から浪人するつもりでした。

升岡：自分もそうです。今も「野球をやっているから授業には出なくていいや」。高校の時もそういう感じでした。

司会：21世紀枠の評価の一つが「文武両道」。もう一つが「伝統」でした。創部110年の高高は、全国でも有数の歴史・伝統のある野球部ですが、所属しているという面は意識されましたか？

池上：もしかすると、野球部に伝統がある割には、古いしきたりなどが無いのが魅力かもしれない。国立高校は高高に比べればそんなに歴史はないんだけど、都立の中では伝統校で、しきたりみたいなものが相当ある。高野球部には妙な上下関係とか締め付けみたいなものはなかったです。

堀本：勝つことを強く求められると、厳しいことが正当化されて、それがいろんなしきたりにつながっていくんじゃないかな。高高は歴史はあるけれど、「勝つことを宿命づけられている」ということはない。だから余分なし

きたりなどが生まれなかったんじゃないですか。
太田：昔はこうだったよ、という話はよく聞いたけれど、そうしろ、ということはなかったと思いますよ。
真鍋：古いしきたりみたいなことは当時まったく感じていなかったです。それは東大でも、高高でも一緒です。どちらかという、「(甲子園の出場回数をソックスのラインで表した) 7本線を8本線にしよう」とか、いいモチベーションにするということですか、過去のことは気にしていませんでした。「負の遺産」みたいなことは全然なかった。

升岡：僕らの時代も、あと一歩で甲子園というところには行きましたが、それでも「勝って当然」というのはなかったです。また、部の持つ雰囲気として東大と高高が似ているのは、OBの方は野球以外の話をされることも多く、伝統があっても変なしきたりやしきたりなどはないところ。東大も高高も、みんな野球以外にも光るものを持っているからだと思う。

再びの甲子園出場を目指して

司会：甲子園に出たメンバーを直接指導した経験がある真鍋さん、彼らはどんな印象でしたか。

真鍋：実力的にそんなにうまいとは思わなかったのですが、非常にひたむきだという印象を持ちました。(甲子園でやれるという)自分の可能性を疑っていない、気持ちの強さがありました。

升岡：甲子園で見た感想ですが、バスターとか、普段の練習でできることはちゃんとできていたと思います。見ていてもつたいないという試合ではなく、次また頑張ればいいと思いました。

真鍋：本人たちは、周りが言うほどは、71年ぶりということは意識していなかったと思います。甲子園のホテルでも泰監督の指導で、毎日少なくとも1時間は勉強していました。試合前日もやりましたね(笑)。そういうところはすごい。甲子園に行ったからといって特別なことはしないという。他校のチームでは考えられないと思います。



真鍋邦大 (平成9年卒—東大硬式野球部)

1) 物心ついたころから 2) セカンド 3) 大学時代の対明治大学。23年間92連敗中だったのを自分の決勝打でストップさせたゲーム 4) 掛布雅之 5) スポーツ観戦 6) 歴史 7) 空手、ボクシング 8) 「継続こそ力なり」 9) 社会人1年目なのでとにかく早く仕事を覚えること 10) 海外で野球に関わる仕事ができたら幸せだと思う



升岡太輔 (平成13年卒—東大硬式野球部)

1) 小4 2) ショート 3) 高2秋の四国大会 (VS 鳴門工業) 4) 松家卓弘 5) 東京探索 6) なし 7) サッカー、バレー 8) 「一生懸命」 9) 六大学野球で活躍すること 10) お金持ち

司会：今回甲子園に出たことを1つの区切りとして、ここから新たなスタートだと思えますが、再び甲子園に行くにはどうしたらいいでしょうか。

池上：今年の甲子園の試合を見ていてあらためて思ったのは、高校野球の場合は、やることをきっちりやっていたら、ある程度強い学校とでも勝負になるし、甲子園で1勝することは、そんなに難しいことではないと実感しました。高高も守備のミスはあったけれど、自分たちの野球をちゃんとやっている。ミスがなければ勝ってもおかしくなかったな、と思いました。スーパープレーをする必要はなくて、普段の練習でやっていることを、ああいう大きな舞台でもきっちりやれば、期待できるんじゃないかと思っています。

司会：データを見ると、21世紀枠に選ばれた高校というのは、2年、3年後にまた甲子園に出ているところがいくつもあるんですね。

堀本：この夏は春のメンバーがそのまま残るわけだから、可能性は高いと思っています。ほくはピッチャーだったので、どうしても注目するんですが、あの(田窪投手)タイプのピッチャーは連投もきくし、大崩れもしない。バランスのいいピッチャーです。池上さんが言われたように、締めるところを締めて、やることをきっちりやれば、夏も甲子園出場の可能性は十分にあると思います。

司会：選手、そして泰監督にアドバイスがありましたら。
太田：ほくがプレーを見た感想は少し違って、普段できていることができている面がある気がします。テレビで見ている方が上手く見えた。スタンドから見ると粗さが目立った気がします。序盤のバントの失敗、

各プロフィール

- 1) 野球をはじめた年は？
- 2) 現役時代の現役時代の主なポジションは？
- 3) 今までで一番、記憶に残っているゲームは？
- 4) 好きなプロ野球選手は？(過去の選手も含む)
- 5) 現在の趣味は？
- 6) 高校時代の得意な科目は？
- 7) 野球以外に興味のあるスポーツは？
- 8) 座右の銘
- 9) 今年の目標は？
- 10) 将来の夢は？

第77回選抜高校野球大会出場記念企画

足も動いていなかった結果、エラーにもつなげた。できることをきっちりやるというのがいかに難しいか、ということなんですか。

池上：やっぱりそれが難しいんですね。
堀本：しかし、あの試合の反省で、徹底的にバントの練習はやっているだろうし、基本の繰り返しをやっていると思いますよ。

太田：何をやらないとならないかは、あの試合で明確になりましたね。

こんなに夢中になれる野球の魅力とは？

司会：最後に、皆さんにとって野球とは何でしょうか？ 皆さんをとりこにしているものは何ですか？

池上：好きというのを乗り越えて、もう腐れ縁かな(笑)。大学を卒業する時、先輩に教員になると話したら、ずっと野球に関わることができてお前は幸せだなと言われました。今は、そうだなという気がします。東大に落ちていたら、野球はやっていなかったと思うし。本当に縁ですね。

太田：やっぱり、野球型スポーツというのは他にない魅力がありますからね。何点とったら勝ちということも、何分とったら終わりというゲームでもなく、最後まで常に逆転の可能性が残っている。団体スポーツでありながら1対1の対戦でもある。どんな人にも適したポジションが見つけられる、そうした組織が好きなのかもしれません。うまく人を使う、あるいは自分が動いていくことによってダイナミズムが生まれ、達成感があります。

堀本：ゲーム性、戦略性などいろんな面がありますが、緊張感が高い中で自分をコントロールして、ある瞬間には燃えたり、冷静な部分とエキサイティングな部分が両方織り交じった中でプレーするのが好きだったのかな、という気がします。

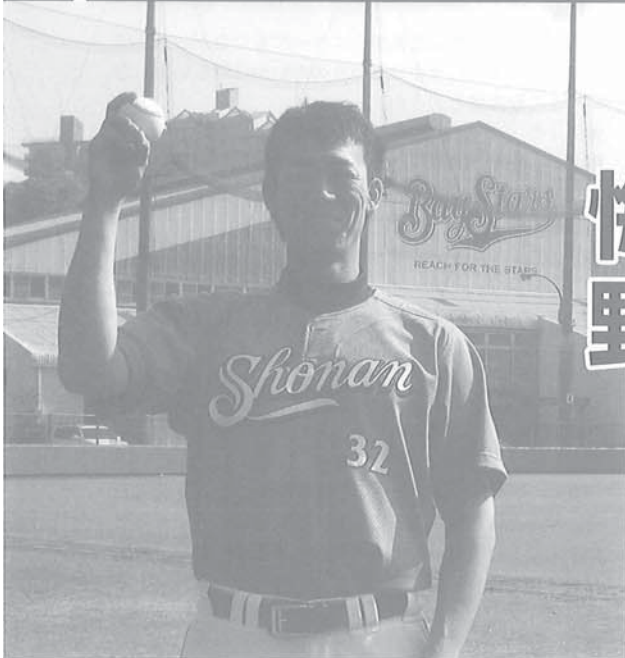
真鍋：ほくは正直なせ野球が好きなの分からないんです。でも野球をやっていた一時期には喜怒哀楽があまりなくて……。感動したり、本気でくやしがついたり、そうした感情を味わえるのは野球だけでした。将来的にも野球に携わる仕事ができないかと今も考えています。

升岡：池上さんがおっしゃったように腐れ縁というか、小さい頃からずっと当たり前になってきましたから。野球をやっていない自分が想像できません。

司会：皆さん、今日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

(司会・構成/昭和56年卒 塚田寿子・森幸茂)





悔いが残らない 野球をやる

松家 卓弘
(横浜ベイスターズ)

今春、高高野球部 OB から史上10人目となるプロ野球選手が誕生した。

松家卓弘投手である。高高在学中は、初の四国大会4強に進む原動力となるも、甲子園にはあと一歩及ばず涙をのむ。しかし彼の活躍は、「高高でもレベルの高い野球がやれる」と勉強と野球の両立を目指す野球少年の目標になり、入部者の増加につながったと聞く。「松家効果」もまた、71年ぶりとなるセンバツの扉を開いたのだ。後輩へのメッセージ、そしてプロの道を歩みはじめた今の心境を聞くべく、横須賀にある湘南シーレックス（横浜ベイスターズの2軍ファーム）のグラウンドへと松家選手をたずねた。

走りこみや筋トレといったことは、高高時代から結構やってきていたので、ここに来てそんなに違和感なくできているのですが、とにかくプロは投げるスタミナが違うということに驚かされています。投げ込みの練習量がすごくて、その回数を故障せずにこなせないことには、やっていけないんだと痛感しています。

毎日毎日、野球のことだけ考えて、やっていられるというのは、ある意味「楽」です。何か（技術的なことで）わからないことがあっても、聞けばすぐに答えがかえってきます。コーチもたくさんいますし、簡単に高いレベルの情報を得ることができます。ただ、それだけ何が自分に最適なことか、情報の選別能

力が問われるかなとは思っています。

高高野球部の思い出

秦監督については、選手よりも野球を楽しそうにやる人だな、という印象です。最近は丸くなったなと感じますが、僕らの時は厳しかったですよ。少し声が出でないとすぐ怒鳴られたし。ピッチャーは僕一人だったので、「おい、走っとけ!」と言われて、工芸のまわりのグラウンドから峰山を登ったり、陸上部のトラックを借りて、よく走ってましたね。

僕の時は、一つ上が6人、同期が9人。ノックしたらすぐ順番がまわってくる。1年の冬、こちらは16人で広島商業へ交流試合に行ったところ、相手は120人ぐらい部員がいて

まで

びっくりしました。

自分の中での高校時代のベストゲームは、2年春の県大会で1対0で高松商業に負けた試合。負け試合でしたが、ずっと打たれる気がしない調子の良さで投げ込めた。ワーストゲームは、3年夏の1回戦の津田校戦。勝った試合でしたが、まったくストライクが入らずにボロボロになりました。

2年秋の四国大会も記憶に強く残っています。勝てばセンバツだった明德義塾戦は、絶対に1点もやれない試合だとすごく張り詰めた気持ちで投げていた。なのに点が入ってしまった。そこでブツンと緊張の糸が切れ、後はそのまま崩れました。気持ちに余裕がなかったですね。まあそれが悲しいかな、自分を含め優勝や甲子園出場から遠ざかっていたチームの弱さなのでしょう。

甲子園での試合は、テレビで見ました。いいな、うらやましい!とまず思いました。みんな楽しそうにやれていたのが、一番良かったですね。彼等に言いたいのは、一度、甲子園のグラウンドを踏めたというのは、ものすごくいい経験で財産だから、それを3年生、2年生だけの経験にするのではなく、下の世代にもちゃんと引き継いでいってください。21世紀枠であったとしても、センバツに選ばれたチームであり、そこで闘ったチームだという「自信」や「いい雰囲気」を壊さないように、次の勝利、甲子園を目指してほしい。

二者択一で悩んだ日々

子供のころから、プロ野球選手になりたいと思っていたわけではないけれど、とにかく中学の時は甲子園に出られる高校に行きたかったし、高校の時は六大学で勝てる大学で野球をやりたいと思っていました。でも高校の時は、オヤジにいってくるめられて（笑）高高を受け、大学は担任の先生に受験にもチャレンジしてみろ、と言われ、負けず嫌いに火がついて（笑）東大を受けた。本当は野球を優先させたい気持ちがあったのに、それができなかった。結局、最後は自分で決めたことなのですが。

ドラフトに選ばれた時も、銀行に内定が出ていて一瞬迷いましたが、今野球を選ばなかったら、死ぬ時に絶対後悔する、そう思って決断しました。普通のサラリーマンの生活もやってみたいのですが、野球は今しかできませんから。巨人の工藤投手みたいな息の長い選手として、いつまでも野球ができたらいいなという思いもありますし、まったく別のことをやっている自分を想像したりもします。

今はとにかく、怪我を治して早くベイスターズのユニフォームを着ないことには始まりません。目標は1億円プレイヤーです。金額のことではなく、1億という評価をもらって初めて、プロとして胸を張れるとの思いがあるからです。（取材/昭和56年卒 塚田寿子）

——第23回総会幹事団紹介 そして第24回へ——

昨年の秋より幹事団を結成して今日まで頑張ってきました56年卒。いろいろ大変なことも多かったけど、結構楽しかった。その生の声を聞いてください。そして57年卒も元気です。



真剣な打ち合わせ風景、さまざまな意見が飛び交う。終われば楽しい飲み会に。久しぶりの出会いが。

総務パート 「ほんまにわしら同期だけで、総会ができるんかいな？」というところから始めて、あつという間の総会当日。総務は2人しかおりませんが、小見山さんのきめ細かく、明るい対応と、私の顔のでかさ！…いえ、顔の広いところを生かし、日常忙しいなか今日の日のために走り回ってくれた皆さんの土台となるべく、総務道に邁進してまいりました。でも、結論は、「やっぱり母校の仲間ってええねえ」ってことでした。おしまい！

☆ 三好 英彦、小見山紀絵

進行パート 進行パート・自称「精鋭部隊」は思いつきで次々と企画を進めてしまう能天気な隊長と、日々辛く厳しい試練(?)を智恵と勇気で乗り越え課題をこなしていく4名の隊員で成り立っています。この隊員達の活躍無しには企画が成り立たなかったと言っても過言ではありません。

楽しいだけじゃない、遠く東京から故郷香川の為に何かを始めるきっかけになるような総会にしたいと頑張った隊員たちの想いが、夏の夜のひととき、皆様の視線を香川に向けることが出来たら幸いです。

☆ 菊池 智津、天野 秀昭、池内 久徳、坂本 桂一、佐藤 賢治

司会 多くの先輩後輩方の力を借りて、56卒同期の皆で協力しあって企画した今年の総会。同級生で集まって何かをやるのは文化祭以来です。エネルギーに溢れた当時の男子女子も、今や貫禄のある紳士淑女(!)に変身していましたが、楽しみながらひとつの事を練り上げ、作り上げていくノリの良さは昔のままでした。そんな幹事団の気持ちは一つ。皆様よろこ「おいでませ」。そして、どうぞ楽しい一時をお過ごしくださいませ。

☆ 鎌田佳寿子(動員)

来賓パート 「大先輩の方々にメールしたり電話をかけるなんて…」と最初は超緊張していましたが、皆様方には、とてもやさしく対応していただくと共に、「応援してるよ！」と励まされました。来賓Pを担当して、「同窓会っていいもんだなあ」と改めて実感。

☆ 佐藤みどり

プログラムパート 「甲子園にも取材にいったでえ」「高松で酒蔵も見ましたよ」「あの有名女優にも収録の合間に会えたよ」。最初はどうなるかと思ったのに、あれよあれよと、ど

んどんふくらむ企画に、思った以上の頁数となりました。いろんな出会いと暖かな感動を味わうことができました。記念に残るプログラムやから、絶対読んでね！

☆ 中井 謙益、石井 栄子、佐藤みどり、塚田 寿子、森 幸茂

動員パート 動員は“物事を引き起こす”動因？

学年幹事会で会費値上げを提案したときのこと。「昨年そのまま」との声が強く重い空気が漂うそのとき、学年幹事暦十年の方の「動員」を頑張ったらえんや！なっ！」の言葉に一転、皆が「そやそや！」と和やかに一致団結。雨降って地固まる。年代を超えて玉翠を愛する会員みなさんのあたたかいご協力に支えられ、動員パートは今日も奔走します。

☆ 外丸 香代、古賀 正仁、谷本 久典、寺田 真弓、正宗 玄、山田 二郎

広告パート 「どのパートでもかまんよ」というオールマイティーな5人で結成された広告パート。早速、出発点であるべき「引継ぎ会」を即行で『新年会』へと進化(?)させてしまい、作業段階ごとに疑問にぶつかる羽目に…。しか～し、諸先輩から「なんしょんな、説明したやん。しゃんとしまい。」と叱咤激励を受けながら地道に活動を続けました。そして、甲子園の寄付集め、振込め詐欺の逆風にも耐え、GWを前にほぼ目標額を達成！！これも協力的な先輩諸氏ならびに同窓生の皆様のお陰です。

ところで、「祝・目標達成広告パート会」いつにする??? 「めんめの広告料の集金をまんでがんすんでからにしまいのー」。あ～っ、周囲から戒めの声が…。まっ、ええか。

☆ 小西 英登、大津 博道、田村 市朗、蓮井 靖信、藤川 明代

会計パート あなたの母校は？と聞かれた時、我々の答えは「高高」。何故か小、中、大ではなく高高なのです。あの頃、あんなに高松を出たいと思っていたのに…。そんな不思議な感慨に浸りながら、気が付けば会計？。う～ん、何とかなるでしょ。後は野となれ山となれ！ ☆ 西口 伸二、小西 英司、近藤 真弓

託児パート 他のパートが早々に活動開始、報告が飛び交う中で不安になります。動員パートのお手伝いもしながら、どうすれば「56らしさを出せるか？」悩みました。

託児室にロバの着ぐるみで登場する？ 子供たちに野球のユニフォームを着せる？(笑)

でも、頼りになる先輩に相談しつつ、進むべき道を見出すことができました。感謝。

そしていろいろ考えた末、やはり信頼と安心でしょう、ということに。子育て世代も安心して、総会に参加してください！ ☆木村依子(動員)、明石真澄(動員)、望月恭子(動員)

次回総会幹事の57年卒より

高松高校28年生として、
大イベントを自らも楽しめる
よう頑張ります！

来年もぜひいらしてください。
お待ちしております。



S57卒一同、2004年第22回総会にて

＜東京玉翠会 同好会一覧＞

同好会名称 世話役（卒業年次）	活動内容・参加者数 他
1 「高高神田会」 岡崎 洋 (S. 37) 神崎 俊 (S. 52) 小山宏記 (S. 53)	●野次馬勉強十なんでも鑑賞十ワイガヤ懇親会 ・そもそも「神田」に何らかの縁をもつ玉翠会員が集まってスタートしたことから、この名前と呼ばれている。 ・年に数回開催されており、最近秋の「東慶寺コンサート」と旧正月の「あん餅白味噌雑煮」の新年会が定例化しつつある。 ・1回の参加者は50名～70名で、高校の先輩から平成の若手まで集う年代は幅広い。
2 「ゴルフ同好会」 小島豊子 (S. 43)	●休日に集うゴルフコンペの会 ・スタート以来11年。開催回数も22回を数える懇親ゴルフコンペの会。 ・毎年、5月と10月の最終日曜日に行われており、開催コースは千葉と埼玉が多い。 ・参加者は毎回30名～40名、昭和10年代卒業の大先輩から平成7年卒の独身まで年代構成は幅広く、女性も常に3～5名顔を出している。
3 「オールスターゴルフ会」 長尾みどり (S. 53)	●平日に集うゴルフコンペの会 ・開催日は常に平日。開催場所も常に「東京よみうりCC」という個性的な懇親ゴルフコンペの会。 ・参加者は悠々自適の年配OBかと思いきや、なぜか現役バリバリビジネスマンが多数。年に2,3回5組20名がチャンピオンコースで1日ゴルフに興じている。
4 「囲碁同好会」 井上 榮 (S. 33)	●老若男女が同時に楽しめる知的スポーツ ・平成7年9月に発足した囲碁同好会は毎年1回欠かすことなく打ち継がれている。 ・この会では、勝負にこだわらず（内心では皆さん勝ちたいと思っている？）楽しく石を打ち下ろすことが暗黙の了解事項。 ・また、人生の縮図でもある「囲碁」というゲームと相俟って、多くの仲間から教わるのが一杯あるのもこの会の大きな楽しみ。
5 「美術同好会」 長谷川 汎 (S. 29)	●美術を愛する同好の士の集まり ・会長に新たに29年卒の長谷川汎氏を選任（5月）。 ・今春は6月5日、6日の両日に那須と塩原に一泊旅行して、「那須 私の美術館」「ニキ・ド・サンファン美術館」と板室温泉大黒屋（現代美術のコレクションで著名な旅館）を訪問。 ・また次回（秋）には千葉県八日市場の「松山庭園美術館」「川村美術館」などを見学する日帰り見学会を開催予定。

同好会名称 世話役（卒業年次）	活動内容・参加者数 他
6 「インターネット研究会」 土居範行 (S. 47)	●東京玉翠会ホームページの管理者 ・東京玉翠会ホームページ開設以来、その管理を担当している。 ・年々充実してきているその内容は～各学年で作成しているホームページとのリンク集 卒業生を応援するページ 東京玉翠会で作った同好会のページなどなど
7 「ブラスバンド部OB会」 頼則絢太 (S. 34)	●総会で校歌・応援歌を好きで吹いてる会 ・例年の総会には、高高吹奏楽出身のOB有志が10～20数名参加。 ・ここ数年、都内某所で事前に練習することによりテーマ曲「威風堂々」も定着。 ・今年は甲子園アルプススタンドで吹きまくりました。
8 「合唱同好会」 新井ゆかり (S. 54)	●とにかく合唱が好きで歌いたい人の集まり ・高松高校音楽部（TMC）OBの呑み会がそのルーツ～練習のあとのビールは最高という人ばかり ・東京玉翠会総会のステージで校歌を熱唱できるという晴れ舞台もあり。 ・合唱経験の有無に関わらず、とにかく歌いたいという人大歓迎。
9 「玉翠倶楽部」 三好英彦 (S. 56)	●行けば玉翠会メンバーに会える？お店を紹介する会 ・玉翠会メンバーであれば、年齢・性別に関係なく呑んで語り合える場を持ちたいとの願望を実現させようと発足した会。 ・玉翠会メンバーが営むお店を中心にセレクト。 ・「〇〇さんのお店も加えて」という情報も大歓迎。
10 「平成会」 斉藤利幸 (H. 1)	●S63十平成卒の会員がとにかく集まった若い懇親会 ・昭和年代卒業のパワフル会員に負けじと結成された平成卒業生の集まり。 ・1年に何回も、事ある毎に懇親会と称する会合で集まり、ワイワイ楽しむのが基本。 ・でも、みんなしっかりとした一面を併せ持つ高高生のな若者であることも確か。 ・平成卒の方々の気軽な参加、大歓迎。 （自称若者の方も、お気持ち次第ではウエルカム？）

＜今後、再開が予定されている同好会＞

同好会名称 世話役（卒業年次）	活動内容・参加者数 他
1 「テニス同好会」 入江 久 (S. 42)	●コートで汗を、アフターコートではビールを楽しむ会 今回を機に再開予定。参加希望の方、是非ご連絡を。
2 「オリエンテーリング同好会」 中山 孝 (S. 17：高中47回)	●山野を巡る知的ウォーキングを楽しむ会 今回を機に再開予定。参加希望の方、是非ご連絡を。

関西玉翠会報告

—センバツ高校野球“猫の手応援”—

関西玉翠会代表幹事

國友 美信

(昭和49年卒)

関西玉翠会は、高高卒業32年目の年次が事務局を担当するというシステムで運営されています。昨年末に前年度の幹事団から引き継いだ矢先に「21世紀枠センバツ出場」の朗報。「甲子園の地元OB会としては何かしなくては」と意気込んでみたのですが、いかんせんノウハウがない。選手のアテンド？寄付あつめ？垂れ幕？練習差し入れ？記念品配り？などあれこれ想定しましたが、高松高校からの依頼は「応援者の確認とアルプススタンド入場券の配布」。年次幹事を介して募った関西の希望者は最終1400名。

甲子園の応援は『第77回選抜高等学校野球大会・応援について』という日本高等学校野球連盟・毎日新聞社発行の全12ページからなる冊子に規則が細かく定められており、それによると、当日のチケット配布の上限は500枚。(……この規則集は出場校関係者でないと目にできないレアモノ?)

3月15日の組合せ抽選会の翌日がチケット入手日。(23日の初日の試合だとほとんど時間がない)

甲子園駅近くで場所を借りる方法など考えましたが、結局900枚を郵送。残り500枚は当日、関西玉翠会／高松高校のロゴ入りの白いウインドブレーカーをそろえて、甲子園前5号スパンで配布。500枚は即無くなりました。

高高的野球部は雰囲気いいですね。宿舎に差し入れに行った時に、甲子園練習で生徒がのびのびと練習を楽しんでいた様子を、秦監督がニコニコとした顔で語ってくれました。6000名を越える大応援団も閉会式で最優秀応援賞をもらいましたし、関西玉翠会の活動テーマがひとつ増えた気持ちです。

夏も期待しましょう。



揃いの白いウインドブレーカー姿で、入場券を配布
<平成17年3月26日 甲子園球場前5号スパンに於いて>

岡山玉翠会の近況

岡山玉翠会会長

辻 孝夫

(昭和30年卒)

今年は、72年ぶりに母校の野球部が「21世紀枠」で春の甲子園出場、応援の部でも表彰を受けるという快挙を成し遂げてくれました。

私達の岡山支部では、役員会で相談し、母校の多田野久玉翠会会長依頼の援助を行った上に、さらに支部としても努力をし、母校へ多田譲治事務局長（昭和44年卒 現香川県立中央病院皮膚科部長）が直接援助をお届けするという母校愛も表現させていただきました。結果は残念でしたが、個人的には同級生で新しく、東京芸大出身の銀座ですばらしいポスター芸術でお仕事中の鈴木八朗君を、「母校野球愛の素敵な絵ハガキ」から50年ぶりに知ることができました。私が執筆した山陽新聞社出版の「健康本」を東京で紹介していただいている藤本烈君に加え、人生でのすばらしい友達を得ることができました。

私達、岡山玉翠会は、東京と違って、人数は350名程度。開催も学年に当番幹事を作るというのは難しく、いつも役員主催で、会場は岡山アークホテルに固定して行なっています（昨年は、平成16年10月24日、第26回総会、写真）。しかし、それだけまともにはよく、さきの故入船健一事務局長の御意思を継いで、多田譲治事務局長、会計を片山美穂（昭和44年）、副会長は昨年と同じ太田武夫（昭和32年）、河野一郎（昭和34年）、清水育子（昭和32年）で、新しく会員に岡山市助役になった井口義也（昭和47年）を加え、楽しくやっています（敬称略）。



筆者



第26回岡山玉翠会総会 平成16年10月24日 於 アークホテル岡山

徳島玉翠会への抱負

徳島玉翠会会長

太田 房雄

(昭和36年卒)

東京玉翠会の皆様はじめまして。本年4月より徳島玉翠会会長をお引き受けした太田房雄です。昨年までは渡邊謙前会長のもとに副会長をしていた時、本総会誌（第22回東京玉翠会総会プログラム P22～23）に寄稿し、その中で格段に低調な徳島玉翠会を東京玉翠会と比較・分析結果を記載しました。文章が苦手な私には苦痛ですが、今回原稿依頼を受けて、会長就任という事もあり挨拶をかねて「徳島玉翠会の活動」に関する話題を提供することで、寄稿を再度引き受けしました。渡邊前会長らが時折本総会誌に寄稿されていた昨年以降目新しい活動もないようですので、4月からの会長就任前後における活動を含め、徳島玉翠会の活性化に関する抱負などを述べて責務を果たしたいと思います。

徳島玉翠会は総会以外にこれという活動をしていませんでした。総会と言っても出席者を確保するのに腐心していました。今後の活性化には、「新しい執行部を組織化すること」、「各年代層より執行部に入っていただくこと」、「女性の参加を促すこと」の三大方針の下に、今年前執行部と新執行部との間で今年初めて新年会を持ちました。この会で、2005年度以降の活動についての方針を話し合いました。私からの提案として、旧執行部からの円滑な移行のために新執行部に留任役員を置く。会長、副会長、事務局、会計幹事に加えて「教育・就職支援担当部」、「女性・生活支援担当部」、「広報・渉外担当部」を設置する。これらの担当部設置理由として、

- 1) 若い世代に将来の役員など執行部で活躍できる働き手を作る。
- 2) 徳島玉翠会にあっては大学関係者が多いこともあり、大学外から主婦の参加による活性化を図る。そのためにもIT (Information Technology) の習得を目指す担当部（教育・就職支援と女性・生活担当）が重要である。
- 3) 会員との連絡及び他府県の玉翠会との連絡・調整は全て会長らがこれまで行っていた事を、新体制では専属の担当部を設けて、1)を促進し活性化を図る。

以上のような組織体制の下に4月より活動を開始するのですが、はたして思惑通りに活性化できるかどうかは今後の執行部の活動いかんによるでしょう。その第一弾として5月の連休後に執行部で会合をもち、今後の方針を具体化する事になりました。さらに、前執行部より預かった繰越金の保管を金融機関に任せるには会則が必要であることから、急いで会則を作成することにしています。

特に重要な事は、上記22回総会プログラムでも述べましたが、お互いの連絡に関する方法が電話から電子メールに移行しているにもかかわらず、多くの会員がメールの受信・送信等にコンピューター（PC）の利用に苦心していることを改めて知らされました。今後は、従来の電話や郵便から電子メールなどのITによる情報交換をしなければ、とても活性化できないと考えています。とは言え、人と人との接触なくしては徳島玉翠会の活性化は困難だろうと思います。日本中活性化の波の中にあり、時間との戦いの中でいかに人と人との接触をはかりながら、ITを駆使して、活性化を目指すべく端緒に着いたところです。

東京玉翠会会員の皆様には、今後とも徳島玉翠会に対して暖かいご支援を賜りますようお願いをして、本総会誌への投稿とさせていただきます。

徳島玉翠会会長 太田 房雄

昭和36年卒（山麓会）

E-mail : ota@nutr.med.tokushima-u.ac.jp



旧・新役員による新年会（2005.1.7.）

表紙デザイナー紹介

<プロフィール>

石井栄子(旧姓高篠：S56年高卒) 埼玉県在住
 1962年高松市生まれ。その後引越しを繰り返し
 高松時代は香川郡香川町からバス&電車通学。
 遅刻常習犯でした。美術部に在籍。絵描きになるのが
 夢で勉強はほとんど…。
 京都精華大学美術学部洋画科に入学。
 絵を描くかわらマスコミ研究会、演劇部に所属し、
 表現活動が続ける。卒業後、アパレル会社、企画会社
 等を転々としたのち、フリーとなり、企画・編集・ライター
 として現在にいたる。
 が、しかし、将来の夢はやっぱり絵描きになること…。



◇ 御礼

幹事団になった当初、これだけの大勢の香川県人が集まる会なので、何か故郷・香川の為に貢献する部分を作りたいという漠然とした気持ちがありました。なかなか具体的な形として実現できずにいました。しかし企画を進めていくうちに、うどんだけではなく「讃岐」の名産品を参加者に再認識して頂き、口コミで広げよう、そうすることで「讃岐」の地場産業の振興に微力ながら貢献できれば…という突破口が開けました。

これも、今回協賛して頂いた香川県庁様(会場での酒類販売の認可に際してのご協力・袋の協賛)、高松市役所様(団扇の協賛)、採算を度外視してご協力頂いた「金陵」「綾菊」「川鶴」の各酒造会社様(鏡開きの樽・乾杯用及び利き酒用の地酒・幹事団の半纏の協賛)、「ヤマロク」様(景品用の醤油の協賛)、「せとうち旬彩館」様(会場内での物販)はじめ多くの皆様方のご厚意の賜物であり、またその影で「香川の振興の為に」とご協力いただいた佐藤哲也氏(54卒)のお力添えがありましたことにも言及しなければなりません。

今回の総会がきっかけとなり、参加された皆様に「讃岐自慢」が増え、讃岐の酒で晩酌をし、讃岐の醤油で冷奴を召し上がって頂けたら、それはとりもなおさず微力ながら香川の産業振興への貢献に繋がります。故郷を離れ東京で暮らした年月の方が長くなっても、私達の中に今も脈打つ「讃岐」への想い。遠く東京から香川の為に出来ることは何だろう。そう考えるひとときも一緒に提供できましたら幸いです。(進行パート 菊池 智津)

◎ 編集後記

- 様々な方の出会いの中でいろんな企画が誕生。無事完成できてほっとしています。(K)
- 特集「讃岐の思い出」を担当。この企画のおかげで20数年ぶりに旧友と故郷に再会。感謝です!(E)
- 高松高校野球部の方々のご協力に心から感謝しています。ご健闘をお祈りします!(Y)
- 「甲子園」「野球」「母校」に関わることができてラッキーでした。皆様のご協力に感謝です。(H)
- 夢の甲子園企画が実現。高畑さんの美貌と優しさに感動。高松で友に再会。最高の気分!(M)

高松中學校校歌

(大正4年9月制定)

作詩 藤井静夫

作曲 安田俊高

Moderato

(電腦浄書/音源 26: 河江一仁)

- 一、朝日輝く屋島山
小波寄する玉藻浦
平和漲る其の響
生氣溢るゝ其の光
我が學舎に充ち満ちて
勤しむ健兒一千餘
- 二、御稜威と共にいや高く
朝夕仰ぐ碑は
日嗣の皇子の行啓の
千代に朽ちせぬ記念なる
奮闘努力の健男兒
ゆめな忘れそそのかみを
- 三、嚴冬霜雪色變へぬ
紫雲の松を名に負へる
我が中學の健兒等よ
堅忍不撓功遂げて
屋島山頭いや高く
名譽の旗を翻せ……翻せ

高松高等女學校校歌

(大正3年9月14日制定)

作詩 小原虎一
作曲 内藤 蝶

Andante
mp

1. みれどもあかぬたまものうら一ち

ひろのそこ一にしづ一くなる一そ

のしらたま一のうる一はしき一

よ一きこころをみがかむみがかむを

と一めわれ一 2. あと一めわれ一

(電腦浄書/音源 26 : 河江一仁)

- 一、見れども飽かぬ玉藻の浦
千尋の底にしづくなる
その白珠の麗はしき
清き心を磨かむ
磨かむ…、をとめわれ
- 二、朝夕仰ぐ屋島の山
峰の上はるかに並び立つ
その山松の色變へぬ
高き操を守らむ
守らむ…、をとめわれ
- 三、開くる御代の幸多き
身にはつとめもさはなれば
うら若き日をたゆみなく
をみな業を習はむ
習はむ…、をとめわれ
- 四、いや榮ゆく皇國の
生ける効ある御民ぞと
仁慈あまねき大君の
みこと畏み盡さむ
盡さむ…、をとめわれ

高松高等学校校歌

(昭和26年12月17日制定)

作詩 河西新太郎
作曲 芥川也寸志

con brio (♩=108)
mf

1. せいき一あらたなひにはえてあさぐもにおう

やしまやま おゝまゆきよきわこう一どが

こうがくのねんゆるぎなくはつらつこそ

るいきをみよよ

(電腦浄書/音源 26 : 河江一仁)

- 一、世紀新たな陽に映えて
朝雲匂う屋島山
おゝ眉清き若人が
向学の念揺ぎなく
澁刺挙る意気を見よ
- 二、平和輝く波よせて
鏡と澄める玉藻浦
おゝ純潔の若人が
真理の道を究めゆく
独立自主の熱意見よ
- 三、仰ぐ紫雲の松風に
雪持笹のさみどりに
おゝ希望わく若人が
自由と愛の血に燃ゆる
わが高松高校の自治を見よ

高松高等学校校友会の歌

(…朝日輝く…)

作詩 藤井静夫
作曲 不詳

Moderato

1. あ さ ひ か が や く や し ま や ま さ
 さ な み よ す る た ま も う ら へ い わ み な
 ぎ る そ の ひ び き せ い き あ ふ る る そ
 の ひ か り わ が ま な び や に み ち み ち て い
 そ し む け ん じ い っ せ ん よ せ

(電腦浄書/音源 26: 河江一仁)

一、朝日輝く屋島山
 さざ波寄する玉藻浦
 平和みなぎるその響き
 精気あふるるその光
 我が学舎に満ち満ちて
 いそしむ健児一千余

二、厳冬霜雪色変えぬ
 紫雲の松を名に負える
 我が高松の健児らよ
 堅忍不撓功遂げて
 屋島山頭いや高く
 名譽の旗をひるがえせ



高高 高高

1. 高高 高高 高高 栄えあるその名
 高高 高高 高高 我等が母校
2. 高中 高中 高中 栄えあるその名
 高中 高中 高中 我等が母校
3. 高女 高女 高女 栄えあるその名
 高女 高女 高女 我等が母校
4. 高高 高高 高高 栄えあるその名
 高高 高高 高高 我等が母校

天に二つの

1. 天に二つの 日あるなし
 ナインの王は 我が高々
 意気と力の 溢るところ
 勝利は常に 我等がかむり
 奮え、奮え、奮え、高々
2. 我等が打つは 球ならず
 我等が打つは 血と肉ぞ
 鍛えし腕は 炎となりて
 勝利は常に 我等がかむり
 奮え、奮え、奮え、高々



東京玉翠会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は東京玉翠会という。

(目 的)

第2条 本会は会員相互の連絡と親睦を図り、母校の発展を期することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達するため次の事業を行う。

- (1) 会員相互の連絡と親睦を図るための会合その他の行事
- (2) 会報、会員名簿の発行
- (3) 母校の発展に寄与すると認められる事業

(事務局)

第4条 本会の事務局を東京都内に置く。

- 2 事務局には事務局長および会計担当の他、若干名の事務局員を配置する。
- 3 事務局員は事務局長の指示のもと各々局務を分担する。
- 4 事務局長および会計担当の選任は第10条第4項の定めによる。
- 5 事務局員は会員の中から事務局長が指名する。

(会則改正)

第5条 本会則の改正は幹事会の決議による。

第2章 会 員

(会 員)

第6条 本会は、香川県立高松中学校、同高松高等女学校、同旧高松高等学校、同旧高松女子高等学校及び同高松高等学校（以上の5校を「母校」という。）の卒業生（これに準ずる者を含む。以下「通常会員」という。）並びに母校の旧職員（以下「特別会員」という。）であって東京都及びその周辺に在住するものをもって組織する。

(部会の設置)

第7条 本会には、第3条の事業を行うため、母校別の部会を置くことができる。

- 2 部会の運営は、その所属会員の協議による。

(会 費)

第8条 通常会員は年会費を納入しなければならない。

- 2 年会費の額は、常任幹事会の決議によりこれを定める。

第3章 役 員

(役 員)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 若干名
- (3) 常任幹事 若干名
- (4) 事務局長 1名
- (5) 幹 事 その員数は次条第2項の定めによる
- (6) 監 事 3名

(役員を選出)

第10条 会長、副会長及び監事は総会において選出する。

- 2 幹事は各卒業年次毎に通常会員の互選により各若干名を選出する。
- 3 常任幹事は会員の中から会長が指名する。
- 4 常任幹事のうち1名を事務局長、1名を会計担当として会長が指名する。

(任 期)

第11条 役員任期は2年とし、重任を妨げない。但し、補欠により就任した役員任期は前任者の任期の残存期間とする。

(役員職務)

第12条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは会長の職務を代行する。
- 3 常任幹事は常任幹事会を構成し、重要な事項の審議及び決定を行う。
- 4 幹事は同期生の消息を把握しその連絡にあたるほか、幹事会を構成して会務の執行を決する。
- 5 監事は本会の会計を監査する。

第4章 会 議

(総 会)

第13条 総会は会長の招集により毎年1回開催する。なお、必要ある場合は臨時総会を開催することができる。

- 2 総会においては次の行事を行う。

- (1) 会務及び会計報告
- (2) 本会則の規定による役員を選出
- (3) 会員の親睦を図る行事
- (4) その他会長が本会の運営に必要と認めて諮った事項の審議及び決定

東京玉翠会役員名簿

役職	卒業年	氏名	卒業年	氏名
会長	昭和34	渡辺 修		
副会長	昭和27	永野 精子	昭和38	高田 トシ子
常任幹事	昭和13	乾 浩三	昭和14	木下 薫
常任幹事	昭和15	堤 久子	昭和20	中村 文俊
常任幹事	昭和20	和波 良子	昭和27	久保 醇治
常任幹事	昭和31	宮武 敏夫	昭和33	大西 昭一郎
常任幹事	昭和33	三宅 貴子	昭和34	三崎屋 義正
常任幹事	昭和38	前田 勇	昭和40	末包 昭彦
常任幹事	昭和42	入江 久	昭和43	小島 豊子
常任幹事	昭和44	片山 秀樹	昭和45	池上 晴英
常任幹事	昭和46	仁木 壮	昭和47	土居 範行
常任幹事	昭和50	瀧崎 正弘	昭和51	大喜多 俊彦
常任幹事	昭和52	植松 健		
監事	昭和20	松本 僑子	昭和23	岡内 伸一
監事	昭和52	合地 仁美		
事務局長	昭和49	岩崎 昭宏		
事務局長代行	昭和49	北村 篤孝		

(幹事会・常任幹事会)

第14条 幹事会及び常任幹事会は必要の都度会長が招集する。
(議長)

第15条 総会、幹事会及び常任幹事会の議長は会長があたる。
(議決)

第16条 総会、幹事会及び常任幹事会の議決は出席者の過半数をもってこれを行う。
可否同数のときは議長の決するところによる。

第5章 会計

(会計)

第17条 本会の会計は年会費、寄附金その他の収入による。
(会計年度)

第18条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 その他

(顧問)

第19条 本会は常任幹事会の推薦により顧問を置くことができる。
2 顧問は会議に出席し、意見を述べることができる。

(委員会)

第20条 本会は、特定の事項に関する企画、研究、立案又は対策のため幹事会の議を経て委員会を置くことができる。
2 委員の選任は会長の指名による。

附 則

第1条 本会則は昭和58年6月25日より施行する。

附 則

第1条 本会則の改正規定は平成15年6月7日から施行する。

附 則

第1条 本会則の改正規定は平成15年11月29日から施行する。

東京玉翠会高中部会幹事名簿

卒業回	卒業年	氏 名 (五十音順)		
36	昭和6	佐藤 國夫		
37	昭和7	川西 工		
38	昭和8	安松 康司		
39	昭和9	頼富 龍太郎		
42	昭和12	山内 省三	和田 康平	
43	昭和13	乾 浩三 *2		
44	昭和14	木下 薫 *2		
45	昭和15	十河 京一		
46	昭和16	赤澤 俊一	藤井 勲	
47	昭和17	岡坂 逸平		
48	昭和18	宮田 和信		
49	昭和19	橋本 暹		
50	昭和20	辻 義文	中村 文俊 *2	堀家 勇
51	昭和20	萱原 博美		
53	昭和22	細溪 美古	千馬 正三	
54	昭和23	岡内 伸一 *3	丸吉 幸也	
55	昭和24~25	牧野 章夫		
55	昭和25	川添 和夫		
56	昭和26	入谷 幹郎	藤井 富弘	
57	昭和27	天野 昭敏	久保 醇治 *2	

*2 東京玉翠会常任幹事

*3 東京玉翠会監事

東京玉翠会晩翠部会幹事名簿

卒業年	氏 名 (五十音順)		
昭和3	藤本 須磨子		
昭和4	松浦 三知子		
昭和7	池本 富		
昭和8	鈴木 綾子		
昭和9	品治 春子	瀬尾 安	
昭和10	柏原 絢		
昭和12	久保 利		
昭和13	高田 慶子		
昭和15	堤 久子 *2		
昭和16	酒井 慶子		
昭和17	日下 徳子	釋 弘子	
昭和18	永田 明子	森田 美津子	
昭和19	岡坂 晴子	山下 ゆき子	
昭和20	陶山 和子	松本 僑子 *3	和波 良子 *2
昭和21~22	藤原 寿子		
昭和23~24	星野 昭子		

*2 東京玉翠会常任幹事

*3 東京玉翠会監事

東京玉翠会(高高)幹事名簿

卒業年	氏 名 (五十音順)		
昭和23～24	◎岡内 伸一 *3	丸吉 幸也	
昭和25	◎川添 和夫	富田 和子	
昭和26	田中 博子	◎前田 道則	
昭和27	天野 昭敏	泉 浩	岡本 節夫
	◎久保 醇治 *2	永井 美枝	永野 精子 *1
	吉田 良子		
昭和28	◎三好 知三		
昭和29	◎長谷川 汎		
昭和30	白井 勝子	◎藤本 博司	
昭和31	◎宮武 敏夫 *2	渡辺 浩	
昭和32	今井 輝子	◎近藤 敬	濱田 清
昭和33	◎井上 榮	大西 昭一郎 *2	三宅 貴子 *2
昭和34	西川 紀男	◎三崎屋 義正 *2	三山 雅敏
	村上 雅子	頼則 絢太	
昭和35	植松 節子	◎本田 道明	
昭和36	◎岡本 光平		
昭和37	◎岡崎 洋	喜岡 俊英	須永 玲子
昭和38	◎小杉 忠夫	高田 トシ子 *1	立山 真浩
	前田 勇 *2		
昭和39	小倉 良弘	中西 登紀子	◎原内 紀夫
昭和40	稲井 篤子	末包 昭彦 *2	◎濱田 良昭
昭和41	◎岩村 わか子	織田 孝正	
昭和42	入江 久 *2	恵比須 忠	平川 峰子
	◎渡辺 泰充		

- *1 東京玉翠会副会長
 *2 東京玉翠会常任幹事
 *3 東京玉翠会監事
 ◎ 学年代表

東京玉翠会(高高)幹事名簿

卒業年	氏 名 (五十音順)		
昭和43	小島 豊子 *2	◎山根 光生	
昭和44	遠藤 隆江	◎片山 秀樹 *2	長嶋 博宣
昭和45	◎池上 晴英 *2	岡内 欣也	金井 誠一郎
	間島 健一		
昭和46	柏原 充男	◎仁木 壮 *2	
昭和47	◎土居 範行 *2		
昭和48	◎多田 泰三	藤川 盛夫	真鍋 賀孝
昭和49	◎岩崎 昭宏 *4	岡 正晶	北村 篤孝 *5
昭和50	高木 賀光	中山 易典	◎淵崎 正弘 *2
昭和51	◎大喜多 俊彦 *2	佐藤 ひとみ	
昭和52	◎植松 健 *2	合地 仁美 *3	野中 真理
昭和53	◎小山 宏記	土田 充	長尾 みどり
	廣瀬 史明	松野 和彦	
昭和54	今井 万里子	◎庄村 敦子	
昭和55	◎池上 茂	永由 美保子	
昭和56	小見山 紀絵	榊原 みどり	西口 伸二
	◎三好 英彦		
昭和57	辻 篤	本田 博之	◎前川 仁
	森尾 周治	和田 康裕	
昭和58	◎佐々木 英夫	長谷川 真里	真鍋 一志
昭和59	池田 佳睦	◎神内 一郎	
昭和60	春日 留美	◎加藤 琢二	
昭和61	◎神部 順子		
昭和62	篠崎 琢磨	◎西口 敦	
昭和63	◎奥本 和幸		

- *2 東京玉翠会常任幹事 *5 東京玉翠会事務局長代行
 *3 東京玉翠会監事 ◎ 学年代表
 *4 東京玉翠会事務局長

東京玉翠会(高高)幹事名簿

卒業年	氏 名 (五十音順)		
平成1	◎斉藤 利幸	佐々木 一樹	日向 みき
平成2	◎谷口 哲也		
平成3	石田 美佐子	◎吉野 ユリ子	
平成4	河西 寿幸	山添 佳恵	
平成5	◎白瀬 健二	福岡 真弓	
平成6	矢野 絵美	◎吉川 純広	早川 寿
	山口 潤		
平成7	◎佐々木 悠子	平尾 禎秀	
平成8	野島 理史		
平成9	◎矢野 和樹		
平成10	鎌田 長明	◎東山 大助	
平成11	小河 恵理	片山 進亮	
平成12	木村 優介		
平成13	◎加治 貴弘	戸島 陽平	
平成14	香西 真里		
平成15	◎小坂 絵美	坂 俊甫	
平成16	◎川池 拓人	三谷 和己	
平成17	前田 雄亮		

◎学年代表

寄贈図書目録

皆様にご協力いただきました母校図書購入資金で、下記の図書が特別コーナーを設けて揃えられております。今年もなにとぞご協力をお願いいたします。

年度	出版社	書 名	巻数
平成6	新潮社	カフカ全集	12
6	清水書院	人と思想	121
6	OXFORD	Oxford Children' s Encyclopedia	7
7	岩波書店	幸田文全集	15
7	岩波書店	1000万人のコンピュータ科学	3
7	集英社	中上健治全集	9
8	集英社	中上健治全集	6
8	岩波書店	幸田文全集	13
8	岩波書店	丸山眞男全集	8
9	文泉堂	壺井栄全集	10
9	日本図書センター	作家の随想	10
10	朝倉書店	図説 世界文化地理大百科	5
11	朝倉書店	図説 世界文化地理大百科	4
11	岩波書店	志賀直哉全集	14
12	岩波書店	志賀直哉全集	7
12	朝倉書店	図説 世界文化地理大百科	4
13	岩波書店	鷗外歴史文学集	13
13	朝倉書店	図説 世界文化地理大百科	3
14	小学館	世界美術大全集 西洋編	8
15	小学館	世界美術大全集 西洋編	8
16	小学館	世界美術大全集 西洋編	8
※17	岩波書店	七冊目の本「日本人の手紙」	

※17：高中昭和15年卒 村尾清一氏（日本エッセイストクラブ会長）より、寄贈いただきました。

皆様のご芳志に対して、心から厚くお礼を申し上げます。
ご芳志を上記の図書にかえて、「同窓会寄贈文庫」の銘を付し、在校生・職員等の閲覧に供しておりますことをご報告いたします。

平成17年5月 高松高校図書館



パリ21区へようこそ

空と海に映える近未来の街・お台場。
ハイセンスなパリのエスプリとともに
優雅なホテルリゾートをお過ごしください。

ホテルグランパシフィック メリディアン

TEL(03)5500-6711

〒135-8701 東京都港区台場2-6-1
<http://meridien-grandpacific.com>

躍動する品川、 やすらぎとおもてなしの街のオアシス

高輪の杜と美しい日本庭園、30階からの眺望、
東京駅から15分、品川駅正面という
まさにシティホテルの魅力がここに 있습니다。

ホテルパシフィック東京

TEL(03)3445-6711

〒108-8567 東京都港区高輪3-13-3 品川駅高輪口正面
<http://www.pacific-tokyo.com>



品川にひとクラス上のくつろぎを

品川駅前の交通至便なロケーション。
最新の設備と“過ごす”快適さを大切に客室は、
ビジネスのターミナル基地として最適です。



高輪京急ホテル

TEL(03)3443-1211

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-8(品川駅高輪口徒歩2分)
<http://www.takanawa-keikyu-htl.com>

株式会社 ホテル京急

〒108-8567 東京都港区高輪3-13-3
TEL (03) 3445-6711 (代表)
FAX (03) 3445-5733

相談役 沖野 勝 (33年卒業)

取締役 小山 正 宣 (39年卒業)

心のふれあい 技術のかけはし

極東産業株式会社

取締役会長 中村文俊 (高中50回卒)

- 装置・機械 (汙過機・攪拌機・熱交換器)
- 設備機器 (タンク・パイプ・伸縮継手等)
- 防蝕ライニング ■エンジニアリング・工事

本社 東京都港区新橋5-10-5
☎03-3433-4761
中部支店・鹿島支店



ゴルフコンペは太平洋クラブで!!

気の合うお仲間とのプライベートコンペ、社内コンペや記念コンペなど
トーナメントで培ったノウハウで、開催をサポートいたします。



- 太平洋クラブ 成田コース(千葉)・・・ ☎0476-35-8855
- 太平洋クラブ&アソシエイツ 美野里コース(茨城) ☎0299-49-1881
- ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート(千葉)・・・ ☎0120-562217

◆◆ その他のコースは、「太平洋クラブコンペインフォメーション」へ TEL.03-5446-1865 (9:30~16:30/平日) ◆◆

大西昭一郎法律事務所

弁護士 大西 昭一郎 (高高33年卒)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル829区
TEL 03-3212-0841 (代表)

INOUE
井上美術印刷株式会社
TEL.03-3819-0821 (代)

adc
(株)エイデザインセンター
TEL.03-3809-0591

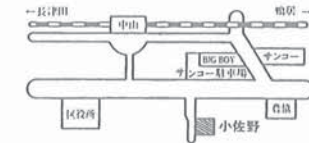
〒116-0001 東京都荒川区町屋1-4-9 FAX. 03-3895-5367

代表取締役 井上 榮 (高高33年卒)

小佐野歯科医院

小佐野 千重子 (45年卒)
(旧姓 林)

〒226-0011 横浜市緑区中山町68-1
TEL (045) 934-3003



HACL <http://www.hacl.jp>

是非一度ホームページをご覧ください
幼稚園・保育園でご好評 園児を見守る技術の目 IPカメラと長時間録画装置
パソコン・携帯電話からお店・工場・営業所の様子がリアルタイムで観られる遠めがね

平川音響株式会社 取締役総務部長 平川峰子 (武上42年卒)

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-12-12 TEL.03-3232-3001 FAX.03-3232-8110

日本をおいしくする

SHOWA



おいしさがつながっています、昭和産業。



小麦や大豆、とうもろこしなどの“大地の恵み”を加工し、さまざまなおいしさの素を提供する、昭和産業。変わることのない素材への厳しい目とおいしさへのこだわり、さらに総合食品会社としてのトータルパワーで、日本の食文化に貢献しています。

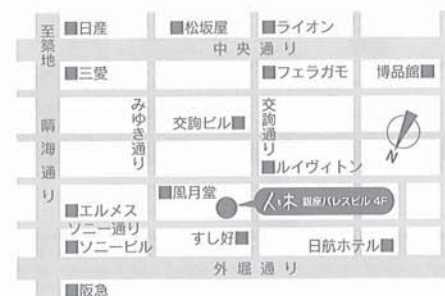
昭和産業、日本をおいしくする会社です。

昭和産業株式会社

製粉部 顧問 長谷川 汎 (昭和29年卒)

〒101-8521 東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル TEL. 03-3257-2904

人木
ひととま



東京都中央区銀座6-6-14 銀座パレスビル4F TEL.03-5568-5586
営業時間/18:00~がんばれるまで

Bar
人木

53年卒 長尾みどり



CARGO CRANE
Rac
RADIO & FINGERTIP CONTROL

Racはカーゴクレーンの
新しいブランドです。



スタンダードを変える。トップレベルを変える。

すべての作業をラジコンでこなせ、オペレータは安全な場所からゴッド・ハンド操作。人気のフック・イン、フック・アウト機能はもとより、プロセス運動操作も片手で自在にこなせます。「作業効率が上がった!」「安全作業が増えた!」、それはRacの作業です。タダノならではの「使いやすさ」が高度に進化したニューブランド、カーゴクレーン Rac「ラック」シリーズです。

株式会社 タダノ 本社/香川県高松市新田町甲34番地 TEL.087(839)5555(代表)
東京事務所/東京都墨田区亀沢2丁目4番12号タダノ両国ビル TEL.03(3621)7777(代表)

タダノホームページアドレス
<http://www.tadano.co.jp>

穴吹の「サーパス」マンションシリーズ

ANABUKI



サーパス
住んでから
サポート

プラスACGシステム

「鍵をお渡ししてから、本当のおつき合いが始まる・・・。」
住み始めたあなたを、ずっと快適でサポートするサービスです。

アフター
サービス

日用品宅配サービス
「サーパス・
ラクデス・システム」

住み替え
サポート
「まかせ太クン」

マンション
管理

インターネット
情報サービス
「さーばすねっと」

リフォーム
相談

※この他にも、さまざまなサービスで快適な暮らしをサポートいたします。

快適な暮らしを創る



建設業許可国土交通大臣許可(特-14)第1478号 国土交通大臣許可(特-16)第1478号 宅地建物取引業
免許国土交通大臣(10)第1545号 (社)首都圏不動産公正取引協議会加盟 (社)不動産協会会員 (社)日
本リゾートクラブ協会会員/本社:〒760-8520 香川県高松市藤原町1-11-22 TEL:(087)835-7111(代)/
東京本社:〒104-8478 東京都中央区八重洲2-6-21八重洲エビル TEL:(03)3517-2800(代)/支社:
東北・関東・東海・関西・中国・四国・九州/支店:札幌・秋田・仙台・山形・郡山・宇都宮・水戸・前橋・東京・
甲府・新潟・長野・静岡・名古屋・富山・金沢・大津・大塚・和歌山・岡山・広島・周南・鳥取・松江・高松・松山・
徳島・高知・福岡・大分・熊本・長崎・宮崎・鹿児島/営業所:福岡・福島・松本・沼津・浜松・岐阜・津・福井・
京都・奈良・明石・福山・下関・米子・佐賀

サーパスマンションの物件情報を
ダイレクトでご覧になれます ▶ www.384.co.jp

穴吹工務店ホームページアドレス ▶ www.anabuki.co.jp
物件情報が携帯電話でもご覧になれます ▶ www.384.co.jp/i

祝

第23回 東京玉翠会総会開催
東京晩翠部会

藤井法律事務所

弁護士 藤井 富弘
(高高26年卒)

〒105-0004 東京都港区新橋1-18-12 新橋1丁目ビル3階

TEL (03)3593-7605

FAX (03)3593-7607

足立・ヘンダーソン・宮武・藤田法律事務所

弁護士 宮武 敏夫
(高高31年卒)

〒107-0052 東京都港区赤坂1-6-8

井上赤坂ビル5F

TEL 03-5562-0910

FAX 03-5562-0916

快適都市創造集団

都市開発・市街地再開発・リゾート開発
オフィス・ホテル・ショッピングセンター
集合住宅等の企画・設計・コンサルティング

本社
設計部 管理部 企画・海外事業部

〒541-0059 大阪府中央区博労町1丁目8番8号 堺筋ISビル8F TEL 06(6260)0726(代)

東京事務所 〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目3番29号 麹町ビル4階 TEL 03(5215)1055(代)

高松事務所 〒760-0062 香川県高松市塩上町3丁目2番4号 中村第一ビル TEL 087(837)7725

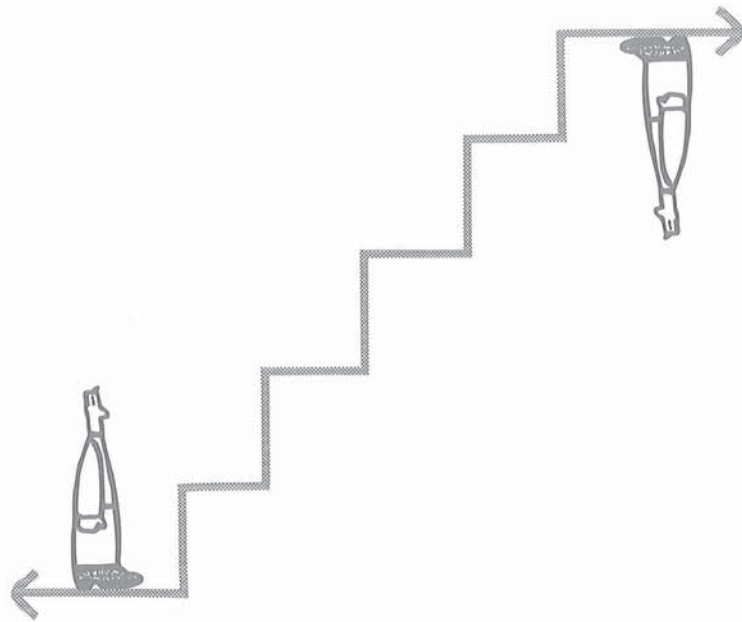
一級建築士事務所

株式会社 IAO竹田設計
IAO TAKEDA ARCHITECTS ASSOCIATES

代表取締役 竹田 秀道 (昭和35年卒)
(社)日本建築家協会会員

私たちが動脈産業です。

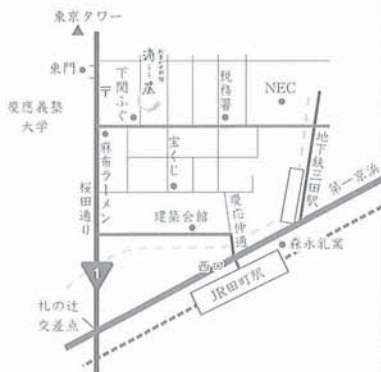
ビルや道路をつくるのに欠かせないセメント。活気にあふれた社会へ資材を送りこむのも、私たちの仕事です。



私たちが静脈産業です。
元気がみなぎる社会から大量に発生するゴミ。それらを資源として再活用、環境を守るのも私たちの仕事です。

太平洋セメント株式会社

〒104-8518 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー <http://www.taiheiyo-cement.co.jp>



我が家でゆつたりと晚酌を楽しむようにお過ごしいただきたい。
よけいな音楽や、煩わしいお品選びを極力省いて、水面にたゆたうように、御身をお任せいただければ幸いです。
粹で気兼ねのない「日本人」時間をお作りできたらと思います。

おまかせ料理 滴しずくや 屋

〒108-0014 東京都港区芝5-12-12
電話 03-5418-4038
営業時間 昼の部 11時30分~14時
夜の部 17時~23時
定休日 日祝日



TOYOTA



トヨタ車のレンタカー・カーリースを通じて、お客様にハイクオリティ・ローコストのサービスを提供するそれがトヨタレンタリース東京の仕事です。

年間、当社レンタカーをご利用いただいている40万人のお客様と、保有台数6万台のカーリースが「信頼と安心」の証と考えています。

TOYOTA よいクルマ・ゆきとどいたサービスの
(株)トヨタレンタリース東京

本社 〒102-8320 東京都千代田区九段南2-3-18 TEL:03-3263-6321
トヨタレンタカー予約センター TEL:0070-8000-10000
<http://www.toyota-ri-tyo.co.jp>

代表取締役社長 梶野 茂
(昭和34年卒)

「日本一美味しい」さぬきうどんを全国に

首都圏におけるうどん店展開



JR四国グループ
株式会社

本社
〒769-0203 香川県綾歌郡宇多津町浜三番丁36-2
TEL (0877)49-6111 FAX (0877)49-6110
フリーダイヤル 0120-49-6110
ホームページ <http://www.merikenya.com/>
E-Mail meriken@neti.com



代表取締役社長 諏訪 輝生(昭和41年卒業)

話題のロングセラー!

10刷!

『壊れた脳 生存する知』

昭和57年卒 山田規敏子著

各メディアで大絶賛!

3度の脳卒中とその後遺症、リハビリの様子を赤裸々に語った、世界にたった一冊の本!

定価：1680円(税込) 講談社 講談社 BOOK 倶楽部でもご購入できます。
URL <http://shop.kodansha.jp/bc/books>



下水道設計・土木設計・測量調査

日新技術株式会社

代表取締役
恵比須 忠
(S42年卒)

本社 〒359-1126
埼玉県所沢市西住吉10-13 カワモト所沢ビル
TEL 042-929-4681 FAX 042-922-6165
E-mail: ngtok@oak.ocn.ne.jp
札幌事務所・仙台事務所・広島事務所・福岡事務所

美味しいお料理と
最上のおもてなし。

環境とからだにやさしいレストラン
おかげさまで創業30周年



日本料理・イタリア料理・フランス料理
厳選した素材を活かした各専門のシェフの
自慢のお料理をお楽しみください。



各種ご宴会
(お席数別室・榻こたつ別室・洋風別室 4名~100名様)
出張パーティー承ります。

フロアのご案内	
8F	イタリア料理 ST. HUBERTUS サン・ウベール
7F	パーティー会場 BRILLIANT ブリアン
4~6F	日本料理 吉川・常盤・藤戸
3F	洋風別室 LE BONHEUR ル・ボンヌール フランス料理 EMU エム

Sun-mi 本店
東京都中央区銀座6-3-9 TEL.03-5568-3300
<http://www.takamatsu-inc.co.jp>
銀座 並木通り店・銀座 七丁目店・横浜 伊勢佐木町店

小早川法律事務所

弁護士 小早川 輝 雄 (昭和29年)
弁護士 小早川 龍 司 (昭和56年)

高松市錦町2丁目3番16号
TEL (087)851-3367(代) FAX (087)851-3368

浅井洋法律事務所

弁護士 (第一東京弁護士会)

浅井 洋
(昭和35年卒)

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-9-8
パレロワイヤル永田町903
TEL. 03-3539-3551 FAX. 03-3539-3552

司法書士 松井名保美事務所

司法書士 **松井名保美**
(高高 昭和49年卒)

〒108-0073 東京都港区三田三丁目14番11号
鳥和三田ビル2階
電話 03(5484)0272
FAX 03(5484)0273

心から心へ。笑顔から笑顔へ。
確かな技術とノウハウで、
人と街を心豊かに彩ります。



株式会社 **イシハラ**

代表取締役 石原 英輝

本社/〒761-8014 高松市香西南町358-1
TEL(087)882-2231 FAX(087)882-8822
営業所/高松営業所・丸亀営業所

石原英輝(昭和34年卒)・「讃志会」(昭和34年卒)事務局
石原久子(昭和38年卒)・石原裕三(昭和62年卒)・石原加奈子(平成2年卒)

石川税務会計事務所

税理士 **石川 肇 久**
C F P

〒102-0084 東京都千代田区二番町5-2
麴町駅プラザ803(有楽町線麴町駅5番出口)
TEL03(5211)1541 FAX03(5211)0777

E-mail:ista@nifty.com

URL:<http://www.now.mfnet.ne.jp/~isshy/>



いつでもいっしょ
香川銀行

東京支店 東京都千代田区神田北乗物町1-1
電話 03-3258-7121

ひびき法律事務所

弁護士 小倉良弘
(高高39年卒)

〒160-0004 新宿区四谷1-8 四谷一丁目ビル8階
TEL 03-3355-2268
FAX 03-3355-2308

通信・設備・土木工事で
四国のインフラを支える企業

快速生活提供企業=ハートフル“カナック”

株式会社 カナック
代表取締役社長 大西大介(昭35年卒)

地元(香川)で働いてみませんか
詳細についてはホームページ、
または電話で確認して下さい。

〒761-0492 高松市三谷町136番地
TEL(087)889-8111 FAX(087)888-1115
ホームページ <http://www.kanac.co.jp>
E-mail info@kanac.co.jp

株式会社 C.S.S技術開発

代表取締役 高城雄三(高高45年卒)

◆営業内容 [基準点測量、現況測量、出来形測量、CAD販売
測量コンピュータ販売、測量機器レンタル・販売]

本社 〒206-0014 東京都多摩市乞田1251 サークビル
TEL 0423-73-1292(代) FAX 0423-73-2330
札幌営業所 〒064-0914 札幌市中央区南十四条西6丁目 行啓通ビル
TEL 011-511-2831 FAX 011-552-2141
高松営業所 〒761-8058 高松市勅使町1205 TEL087-865-3744

歴史に名高い駒込寺

〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内一三六七
TEL 0467-21-1663
井上米輝子
(S45年卒)

PRONTEST®

英語企業研修
株式会社プロンテスト

代表取締役 奥村真知(高高50年卒)

URL: <http://www.bearscom.com>
<http://www.prontest.co.jp>
〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-25-18
TEL 029-858-0208

●自己実現へのロマン—いま、手軽なものに。

自分史出版のご案内

専門家や、技術スタッフ陣が
あなたの本づくりをゆたかに演出します。
東京支社長 池上晴英(S45卒)

株式会社 美巧社 総合印刷・出版

東京支店 ●東京都文京区小石川2-2-14 ☎(03)3913-8231 FAX(03)3913-8234
本社 ●香川県高松市多賀町1-8-10 ☎(087)833-5811 FAX(087)834-1264
坂出支店 ●香川県坂出市旭町3-1-23 ☎(08774)6-1005 FAX(08774)6-1005
INEX支店 ●香川県高松市常盤町2-6-17 ☎(087)831-0881 FAX(087)833-9839

日本筆跡診断士協会(会長 森岡恒舟 高高27年卒)

理事・認定筆跡診断士

久保 醇治(高高27年卒)

〒195-0061 東京都町田市鶴川4-28-16
TEL&FAX042-735-3646

本部 〒113-0034 文京区湯島3-8-9 松本ビル
TEL:03-3837-7531 FAX:03-3837-7621

讃岐手打うどん
四国活魚料理

高松 37年卒
藤村節子

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-7-7 窪田ビル1階
電話 東京(03)3406-0865

濱田法律事務所

濱田 清(高高32年卒)

〒102-0093 千代田区平河町1の8の2
山京半蔵門バレスビル604
TEL 03-3221-6261

株式会社 カニワトーキョ

代表取締役 岩井耀子
(高高42年卒)

東京都港区南青山6-8-11
株式会社ウチダレースビル 4F
TEL 03-5774-5484

宮武医院

宮武 治郎
(高高32年卒)

〒192-0914 八王子市片倉町1221-26
☎ 0426-36-8317

Digital Development
& Interactive Media Design

HyRock

- デジタルコンテンツ企画・開発
- WEBシステム構築
- PCシステム開発

有限会社 ハイロック 小山 宏記(高高53年卒)
151-0071 渋谷区本町2-33-20-404
TEL:03-5334-7595 FAX:03-5334-7596
E-mail: koya@hyrock.co.jp

司法書士
行政書士 **松尾和代**
(高高42年卒)

事務所
〒254-0046 神奈川県平塚市立野町7番9号
電話 (0463)34-5000 FAX (0463)37-3555

ペンギン歯科

横須賀市上町3-40 Tel. 046-827-1547
<http://www.penguidental.com/>

49年度卒 竹花 則子

阿部・井窪・片山法律事務所

弁護士 **伊藤 尚**
(昭和52年卒)

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目8番7号 福岡ビル9F
電話 03(3273)2600(代表)
FAX 03(3273)2033

辯護士 **岡 正晶**
(高高49年卒)

梶谷総合法律事務所
〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目四番一号
丸の内ビルディング23階2511区
電話 (03)5212-1451(代表)
FAX (03)3201-5456
E-mail: m-oka@kajitani.gr.jp

岡崎・大橋・前田法律事務所

弁護士 岡崎 洋 (高高37年卒)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-2 淡路町サニービル4F
TEL 03-5296-7676 FAX 03-5296-7678

京王線笹塚駅歩いて1分

産婦人科・内科 東クリニック

ホームページ a-azuma.com をご覧ください。

Tel. 03-3481-0380
Fax. 03-3481-6776



讃岐のうどん屋
NEGI DOUZOU

AM11:00~PM3:30
PM5:30~PM10:00
PM5:30~PM9:30(日曜日)
年中無休



高高42年卒5名で
作ったうどん屋です。
夜は地酒等も
御用意しております。

武蔵野市吉祥寺本町1-1-9-2F
TEL&FAX 0422-29-0525
代表取締役 長田 光博

中広デンタルクリニック

東京都千代田区有楽町1-6-6 常盤ビル4F
☎03-3591-5822

院長 中広 哲也 (高高46年卒)



祝

第23回 東京玉翠会総会開催
高高昭和48年卒業生一同

祝

第23回 東京玉翠会総会開催
東京 高高昭和50年卒業生一同

祝

第23回 東京玉翠会総会
昭和51年卒 有志一同

高高卒業生のための 高高卒業生による家庭教師センター

INF 個別指導教室
受験専門家庭教師グループ

高松高校OBサポートセンター
横浜本部 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡48-3F
Phone. 045-314-3203

東京の大学に通っている高高卒業生には、
安心して働けるアルバイト先の提供を。
高高 OBには安心して頼める家庭教師を。

ホームページ <http://www.inf-tutor.com/>

代表 白濱 秀樹(高高S.49卒)



株式会社 コンピュータ・サポート

〒104-0031
東京都中央区京橋 1-8-13
代表取締役 川久保建男(53年卒)
kawakubo@compsupt.co.jp

Tel 03-5524-2205
Fax 03-5524-2206

生活設計塾 クルー

生活設計塾クルーは特定の金融機関等に属さ
ない独立系ファイナンシャルプランナー集団。
住宅ローン、保険、資産運用など個々の事情
に応じたアドバイスを行う。TEL. 03-5342-6250
昭和50年卒
<http://www.fp-clue.com/> 内藤 真弓(旧姓 緒方)

アローズ法律事務所

弁護士 藤本 邦人(昭和53年卒)
弁護士 関谷 利裕(昭和54年卒)

〒760-0023 高松市寿町2-2-10 JPR 高松ビル 5F
電話 087-826-3880

祝

第23回 東京玉翠会総会開催

高高昭和52年卒業生一同



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-8-14
大黒ビル 2F
TEL. 03-3444-5511
<http://www.t-hot.com/ebisu/>



〒105-0004 東京都港区新橋3-16-4
西原ビル
TEL. 03-3431-3442
<http://www.t-hot.com/funadede/>



〒105-0044 東京都港区新橋3-16-4
西原ビル B1
TEL. 03-5777-1477
ddsk@t-hot.com



〒107-0062 東京都港区南青山1-15-3
ヘガサビル 2F
TEL. 03-3479-8606
<http://www.t-hot.com/harden/>

harden-tighten

〒107-0061 東京都港区北青山3-12-12
Holon/L 3F
TEL. 03-3495-6700
<http://www.fujimaru.info>



千葉(十河)君代 (昭和47年卒業)

企業における
リスクマネジメントの導入や
リスクマネジャーの養成、
キャプティブ保険会社設立のことなら…



Practical Enterprise Risk Management

- Risk & Insurance Management Society, Inc. (RIMS) 法人会員
- 日本RIMS支部・リスクマネジメント協会 法人会員

有限会社 リスクワン

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-1-2-301
TEL:03-5834-9391 FAX:03-5834-9392
E-mail:info@risk-one.com
URL:http://www.risk-one.com

生命保険・損害保険を超越した
リスク・ファイナンス

【 損害保険 】

- ・ゼネラル保険会社・AIU保険会社・株式会社損害保険ジャパン・東京海上火災保険株式会社

【 生命保険 】

- ・ソニー生命保険株式会社
- ・アイエヌジー生命保険株式会社
- ・アクサ生命保険株式会社
- ・アメリカンファミリー生命保険株式会社
- ・アメリカンライフ インシュアランス カンパニー
- ・オリックス生命保険株式会社
- ・東京海上日動ファイナンス生命保険株式会社
- ・損保ジャパンひまわり生命保険株式会社
- ・大同生命保険株式会社
- ・東京海上日動あんしん生命保険株式会社
- ・日本生命保険相互会社

有限会社 インシュアランス・ワン

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-1-2-301
TEL:03-5834-9905 FAX:03-5834-9392 E-mail:info@insurance-one.co.jp
URL:http://www.insurance-one.co.jp



代表取締役
三好英彦
(昭和56年卒)
Hidehiko Miyoshi

讃岐うどん

綾川

25年卒 大林 正明
26年卒 ♪ 美佐江
(旧姓 久保)

〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町1-1
吉祥寺駅ビル“ロンロン”地下飲食街
TEL. 0422-22-7928

うどん 源内

源内本店 香川県さぬき市志度天野峠1597
高松店 香川県高松市郷東町12~13
ホームページ http://www.gennai.co.jp

香川県高松市紺屋町3番地の12

西風循環器科医院

院長 西風 潤

水尾 純 (56年卒)

祝 第二十三回東京玉翠会総会
五六座顔見世

三好英彦	小見山紹絵	瀬池智津	天野秀昭	池内久徳	佐藤賢治	坂本桂一	佐藤みどり	中井謙益	石井栄子
塚田壽子	森 孝茂	仲丸香代	吉賀正仁	谷本久典	寺田真吾	正宗 玄	山田二朗	小西英登	大津博通
田村市朗	蓮井靖徳	藤川明代	西口伸二	小西英司	近藤真吾	木村依子	明石真澄	望月恭子	鎌田佳寿子

本日はお喜びの中のお運び誠に有り難うございます。
まだまだ不感を迎えられる五六卒の面々ではございますが、
赤糸くぐ鼻肩の程を、隅から隅までずずずい~~~~っど、
おの願ひ上げ奉りまする~~~~。

昭和五十六年度卒 幹事団一同

JCB
future, together.

いつも、
それ以上のモノを⁺
求める人に。



日本でいちばん使える
カードであること。

JCB QUALITY

お問い合わせ JCB入会ご案内専用ダイヤル (9:00AM-5:00PM 日-夜休) 0120-015-870 ※電話番号は、お間違いのないようお願いください。 JCBグローバルサイト <http://www.jcb-global.com/>

株式会社ジェーシービー 特別顧問 中西 公 (高高S34年卒) 東京都港区南青山5-1-2 青山ライズスクエア

百十四銀行

<http://www.114bank.co.jp/>

いい出会い
ふくらむ未来



スピードおさえて、いい運転。シートベルトとチャイルドシートを忘れずに。

Compact meets Luxury.

コンパクトがはじめて出会う上質。



SHIFT_compact quality

TIIDA

ティイダはコンパクトの質をシフトする。-ゆったりとしたラージシート。しっとりと柔らかいアームレスト。その上質なくつろぎは、もうコンパクトではない。日産TIIDA、誕生。

室内の上質な仕立てと大きなシート

ひとクラス上の広々とした室内

新開発エンジン+CVTの爽快な走り

PHOTO:ティイダ 15M ボディカラーはハーベストイエロー(M)＜#E32＞ 内装色はサンドベージュC ◎主要諸元:全長4205×全幅1695×全高1535(mm)、HR16DE、総排気量1498L、最高出力80kW(109PS)/6000rpm、最大トルク148N・m(15.1kgm)/4400rpm、エクストロニックCVT(無段変速機) ◎主要装備:カブリックファブリックコンビシート、CD一体AM/FM電子チューナーラジオ、UVカット断熱グリーンガラス、抗菌仕様(ステアリング、シフトノブ)、メタリック調パネル、オートライトシステム ◎お近くの日産へ。◎日産車のお問い合わせ:お客様相談室(フリーコール(携帯電話も対応)0120-315-232 9:00~17:00) ◎iモードでも情報発信中! | メニュー→メニューリスト→趣味・クルマ/バイク→NISSAN 最新車 ◎日産自動車では、最も適した燃料を指定しております。指定以外の燃料をご使用になると、性能が十分発揮できなったり、思わぬ故障につながる恐れがありますので、必ず指定の燃料をお使い頂くようお願い致します。| カブリックはアキレス株式会社の登録商標です。◎自動車リサイクル法がスタートしました。



www.nissan.co.jp